

Accuphase

STEREO CONTROL CENTER

ステレオ・コントロール・センター

C-2150

取扱説明書



ご使用の前に、この「取扱説明書」と別冊の「安全上のご注意」をよくお読み
のうえ、正しくお使いください。お読みになったあとは、お客様カードと引きか
えにお届けいたします「品質保証書」と一緒に大切に保管してください。

このたびはアキュフェーズ製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。
 ございます。

最高峰のオーディオ・コンポーネントを目指して完成されたアキュフェーズ製品は、個々のパーツの選択から製造工程、最終の出荷にいたるまで厳重なチェックを行い、その過程と結果の個々の履歴は、製品全体の品質保証に活かされています。このような品質管理から生まれた本機は、必ずやご満足いただけるものと思います。

末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

5年間の品質保証と保証書

本機の品質保証は5年間です。付属の「お客様カード(保証書発行はがき)」に必要事項を記入の上、必ず(なるべく10日以内に)ご返送ください。「お客様カード」と引きかえに「品質保証書」をお届けいたします。

*「お客様カード」のご返送や「品質保証書」の発行について、詳しくは29ページをご参照ください。

*「品質保証書」はサービスサポート時に必要となります。保証書がない場合は、全て有償修理となりますので、保証登録を行っていただき、届きました保証書を大切に保管してください。

製品に関するお問い合わせや異常が認められるときは、お求めの当社製品取扱店または当社品質保証部へ、直ちにご連絡ください。

尚、保証は日本国内のみ適用されます。

The Accuphase warranty is valid only in Japan.

ご注意

- ① 本書の内容の一部または全部を無断で複製・転載・改題することはおやめください。
- ② 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
- ③ 本書に、ご不明な点、誤り、記載もれ、乱丁、落丁などがありましたら弊社までご連絡ください。



マークについて

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人身事故の発生する可能性や製品に重大な損害を生じる恐れがあることを示しています。お客様への危害や、機器の損害を防止するため、表示の意味をご理解いただき、本製品を安全に正しくご使用ください。



警告

この表示を無視して、誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う可能性があり、その危険を避けるための事項が示してあります。



注意

この表示を無視して、誤った使い方をすると、人が軽度の傷害を負う可能性や製品に損害を生じる恐れがあり、その危険を避ける為の事項が示してあります。

付属品をご確認ください

- 取扱説明書(本書) 1冊
- 安全上のご注意 1冊
- お客様情報の取扱いについて 1枚
- お客様カード(保証書発行はがき) 1枚
- 目隠しシール 1枚
- プラグ付きオーディオケーブル(1m)(AL-10) 1組
- AC電源コード(2m) 1本
- 単3乾電池 2個
- リモート・コマンダー RC-230 1個

著作権について

放送や録音物(CD、テープなど)から、あなたが録音したものは、個人として楽しむ以外、権利者に無断で使用することはできません。音楽作品は著作権法により保護されています。

音のエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては気になるものです。特に静かな夜間には、音量に気を配りましょう。窓を閉めたり、ヘッドフォンをご使用になるのも一つの方法です。

目次

付属品をご確認ください 表紙裏頁

1. 安全上必ずお守りください 2,3

- ▲警告 2
- ▲注意 3
- ご注意ください事項 3
- ご留意いただきたい事項 3
- お手入れ 3

2. 各部の名前 4,5

- フロントパネル、リアパネル 4
- 18 機能ディスプレイ部 5
- 19 レベル/周波数ディスプレイ部 5

3. 各部の動作説明 6~15

- 1 POWER - 電源スイッチ 6
- 2 OUTPUT - 出力切替スイッチ 6
- 3 TONE ON/OFF, BASS, TREBLE - トーン・コントロール 7
- 4 PHASE - 位相切替ボタン 8
- 5 MONO - モノ/ステレオ切替ボタン 9
- 6 DISPLAY - 表示モード切替ボタン 9
- 7 DAC - DAC入力切替ボタン 9
- 8 MC/MM - MC/MM切替ボタン 9
- 9 BALANCE - バランス調整 10
- 10 GAIN - ゲイン切替スイッチ 10
- 11 RECORDER - レコーダー・スイッチ 10
- 12 OPEN - サブパネル開放ボタン 11
- 13 COMP - コンペンセーター(聴感補正)ON/OFFボタン 11
- 14 ATT - アッテネーターON/OFFボタン 11
- 15 PHONES - ヘッドフォン出力ジャック 12
- 16 INPUT - 入力セレクター 12
- 17 リモート・センサー 13
- 18 機能ディスプレイ部 13
- 19 レベル/周波数ディスプレイ部 13
- 20 VOLUME - ボリューム・ノブ 13
- 21 オプション・ボード増設スロット 14
- 22 ライン入力端子 - TUNER, CD, LINE 1 ~ 3 14
- 23 バランス入力端子 - CD-BAL, BAL 14
- 24 RECORDER端子 - REC, PLAY 14
- 25 ライン出力端子 - LINE 1, 2 14
- 26 バランス出力端子 - BAL 15
- 27 外部プリアンプ(ライン)入力端子 - EXT PRE INPUTS(LINE) 15
- 28 外部プリアンプ(バランス)入力端子 - EXT PRE INPUTS(BAL) 15
- 29 AC OUT - 電源スイッチと連動するACコンセント 15
- 30 AC電源コネクタ 15

4. 接続図 16

5. リモート・コントロール 17

- リモートコマンダー RC-230の機能 17
- ご使用方法 / 乾電池について 17

6. ご使用方法 18~21

- スイッチ類の初期設定 18
- CDプレーヤーで演奏を聴く場合 18
- チューナーで放送を聴く場合 18
- 別系統のプリアンプやAVアンプでの演奏 19
- レベル/周波数ディスプレイ部の《表示モード》変更 20
 - ボリューム・ノブを回した時の表示例 20
 - 表示モードの切り替え方法 20
- レコーダーで録音・再生をする場合 21
 - 接続 21
 - 機能 21
 - 操作(再生、録音、電源OFF時のチューナー録音) 21

7. オプション・ボード 22~25

- オプション・ボードの使用方法 22
 - DAC-50: CDなどをデジタルで演奏 22
 - AD-50: アナログ・ディスク(AD)の演奏 23
- オプション・ボードの種類 24
 - ライン入力ボード LINE-10 24
 - アナログ・ディスク入力ボード AD-50 24
 - デジタル入力ボード DAC-50 24
- オプション・ボードの取り付け方法 25

8. オーディオ・ケーブル(オプション) 25

9. 保証特性 26

10. ブロック・ダイアグラム 27

11. 故障かな?と思われるときは 28

12. アフターサービスについて 29

安全上必ず
お守りください

各部の名前

各部の
動作説明接
続
図リモート・
コントロール

ご使用方法

オプション・
ボードオーディオ・
ケーブル

保証特性

ブ
ロ
ッ
ク
・
ダ
イ
ア
グ
ラ
ム故障かな?と
思われるときはアフターサービス
について

1. 安全上必ずお守りください

ご使用前にこの『取扱説明書』と別冊の『安全上のご注意』を良くお読みの上、製品を安全にお使いください。

警告

■電源は必ずAC(交流)100V、50Hz/60Hzを使用する。

- AC100V(50Hz/60Hz)以外で使用すると、感電や火災の原因となります。

■付属または当社指定の電源コード以外は絶対に使用しない。

- 感電や火災の原因となります。

■ぬれた手で電源プラグを絶対に触らない。

- 感電の原因となります。

■電源コードの上に重い物をのせたり、本機の下敷きにしない。

- 電源コードは取り扱いを誤ると、感電や火災の原因となり危険です。
- 電源コードが傷んだら、当社製品取扱店または当社品質保証部にご連絡ください。

■放熱のため製品の周辺は他の機器や壁等から充分間隔(10cm以上)をとる。

■機器の上に水などの入った容器(花瓶、植木鉢、コップ、化粧品、薬品など)、新聞紙、テーブルクロスなどを置かない。

■火災又は感電を防止するために、屋外、雨が降る場所及び湿気の多い場所では絶対使用しない。

■トップ・プレート(天板)やボトム・プレート(底板)は絶対に外さない。

- 内部に手などで触れると感電や故障の原因となり、大変危険です。

■脚の交換は危険ですから行わない。

- 取り付けネジが内部の部品に触れると、火災や感電、故障の原因となります。

■次の場合には本体の電源スイッチを切り、必ず電源コードをコンセントから抜く。安全を確認後、当社製品取扱店または当社品質保証部にご連絡ください。

- 製品に水や薬品などの液体がかかった場合。
 - 内部に異物(燃えやすい物やヘアピン、釘、硬貨など)が入った場合。
 - 故障や異常(発煙やにおいなど)と思われる場合。
 - 落としたり、破損した場合。
- *上記の各項目に対して、電源スイッチをOFFにだけでは、本機への電源供給が完全に遮断されません。そのまま使用すると火災や感電、故障の原因となります。必ず電源コードをコンセントから抜いてください。
- *万一の場合、電源コードをコンセントから容易に外せるように、コードの引き回しやコンセント周りの環境を整えてください。

■入・出力端子や、AC電源コネクタ、電源プラグには接点復活剤や導電剤などは絶対に使用しない。

樹脂部が経年劣化で破損したり端子部がショートをおこし、感電や火災あるいは故障の原因になる事があります。
(接点復活剤、導電剤使用による不具合は保証外となります。)

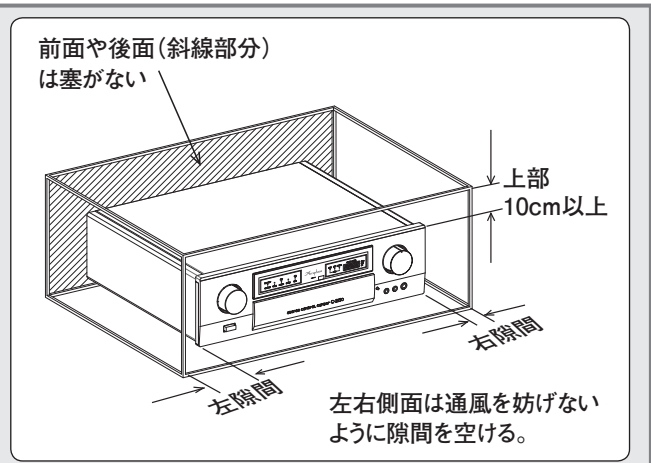
■密閉されたラック等には絶対に設置しない。

- 通風が悪いと機器の温度が上がり、火災や故障の原因となります。

ラック等に設置する場合は、周囲の隙間を充分確保する。

通気孔をふさいだり、周囲の通風を妨げると故障の原因となります。

特にラック等に設置する場合は、右の図を参照して、製品左右や上面の隙間を充分確保し、周囲の通風を妨げないようにして、前・後面を密閉したラックは使用しないでください。



注意

■ 次のような場所へは設置しない。

故障の原因となります。

- 通風が悪く、湿気やほこりの多い場所
- 直射日光の当たる場所
- 暖房器具の近くの場所
- 極端に温度の低い場所
- 振動や傾斜のある不安定な場所

■ パワーアンプなど他の機器に直接重ねて設置しない。

故障の原因となります。

■ 接続ケーブルやスピーカー・ケーブルを接続する場合は、必ず各機器の電源を切る。

特に電源を入れたままRCAタイプのピンプラグを抜き差しすると、大きなショック・ノイズが発生し、スピーカーが破損するおそれがあります。

■ 長期間使用しないときは、安全のために電源プラグをコンセントから抜く。

故障の原因となります。

■ オプション・ボードを抜き差しするときは必ず電源を切る。

故障の原因となります。

■ 室温35℃以下で使用する。

故障の原因となります。

ご注意ください事項

■ 本機と他の製品1台との接続の際、バランス・ケーブルとライン(アンバランス)・ケーブルを同時に接続しないでください。アースがループになって、ノイズを発生させる原因となります。

■ 電源スイッチを切ってから10秒以内に再びONしないでください。ノイズ発生などの原因となります。

■ 電源スイッチは、ボリュームを下げてから切ることをおすすめいたします。次回の演奏時に、急に大きな音が出るのを防ぐことができます。

■ ヘッドフォンを使用するときは、本機のボリュームを下げることをおすすめいたします。

スピーカーやヘッドフォンから急に大きな音が出るのを防ぐことができます。

■ デジタル入力ボードでの演奏中に、デジタル接続ケーブルを外さないようにしてください。ノイズが発生するおそれがあります。

■ アナログ・ディスク入力ボードを増設し、レコード・プレーヤーでカートリッジを上げたり下げたりするときは、本機のボリュームを下げるようにしてください。大きな音でスピーカーを破損するおそれがあります。

ご注意ください事項

■ 本機のボリューム・コントロールは、16段階に重み付けされた音楽信号を電流スイッチで切り替えるAAVA(Accuphase Analog Vari-gain Amplifier)を採用しています。高能率スピーカーをお使いで、ボリュームやバランスの調整を行う際に、電流スイッチの切り替え動作音が聞こえる場合がありますが、異常ではありません。

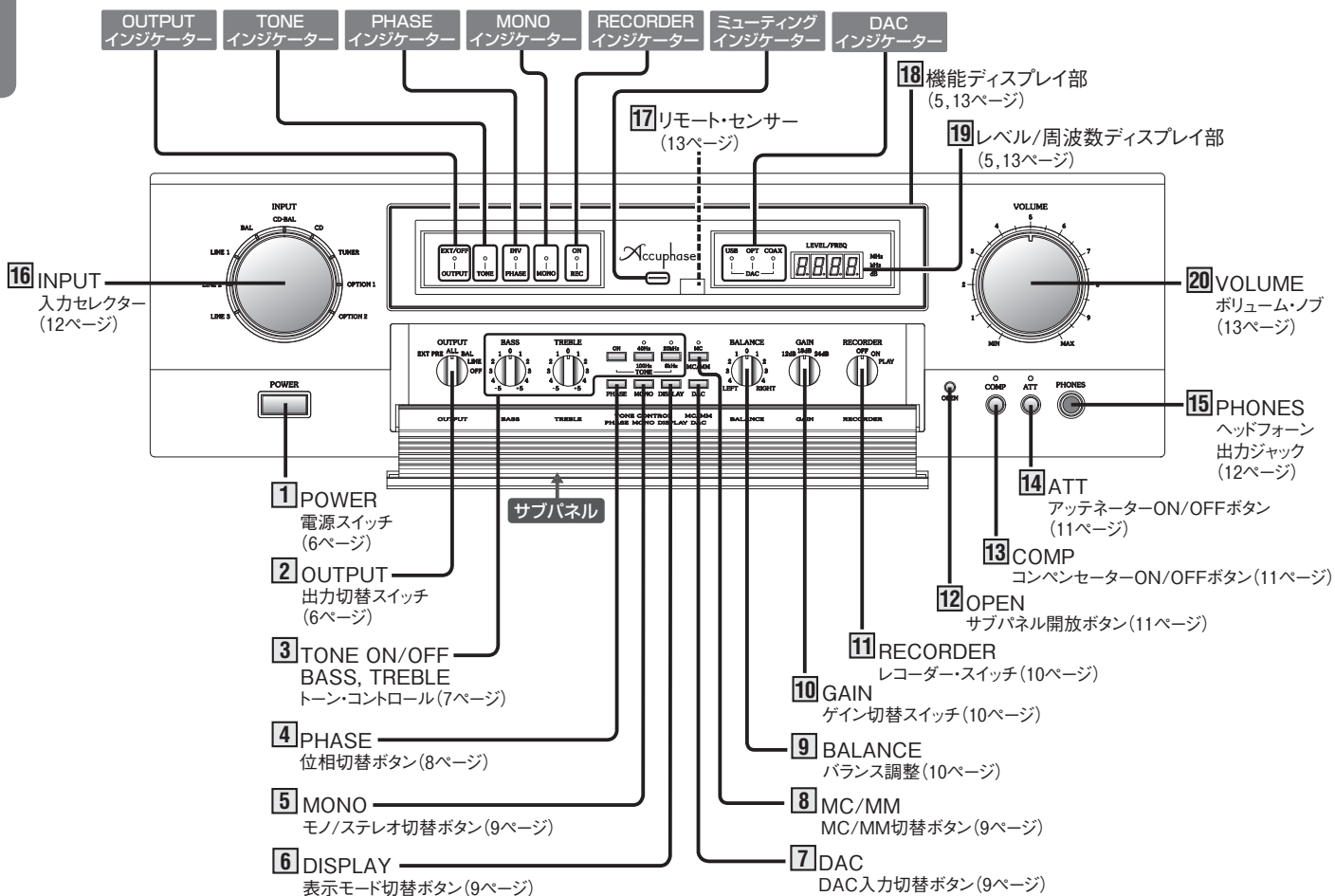
お手入れ

- お手入れの場合は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 本体のお手入れは、柔らかい布を使用してください。固く絞った布で水拭きし、その後乾いた布で拭いてください。ベンジン、シンナー、油、ワックス等を使用してお手入れは、表面を変色させたり、傷つけたりしますので使わないでください。
- フロントパネル面のガラス側面はコーティングされており、白い布で拭くと黒っぽく着色することがありますのでご注意ください。

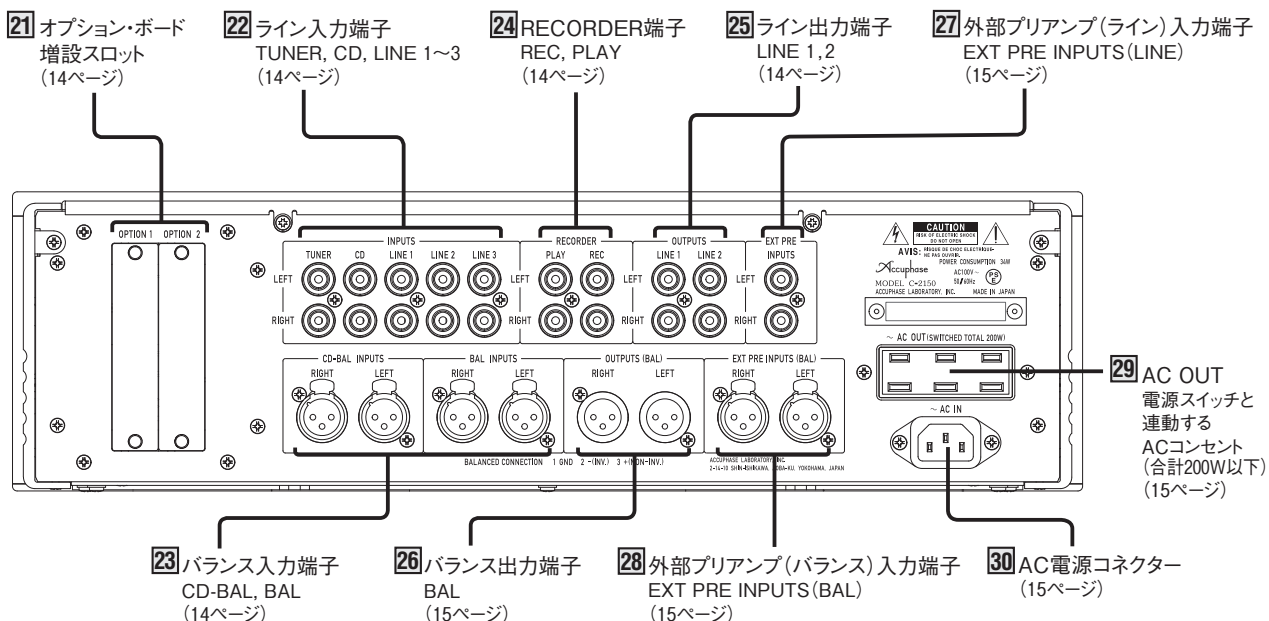
2. 各部の名前

詳しい説明は、各項目()内のページを参照してください。

フロントパネル(前面)



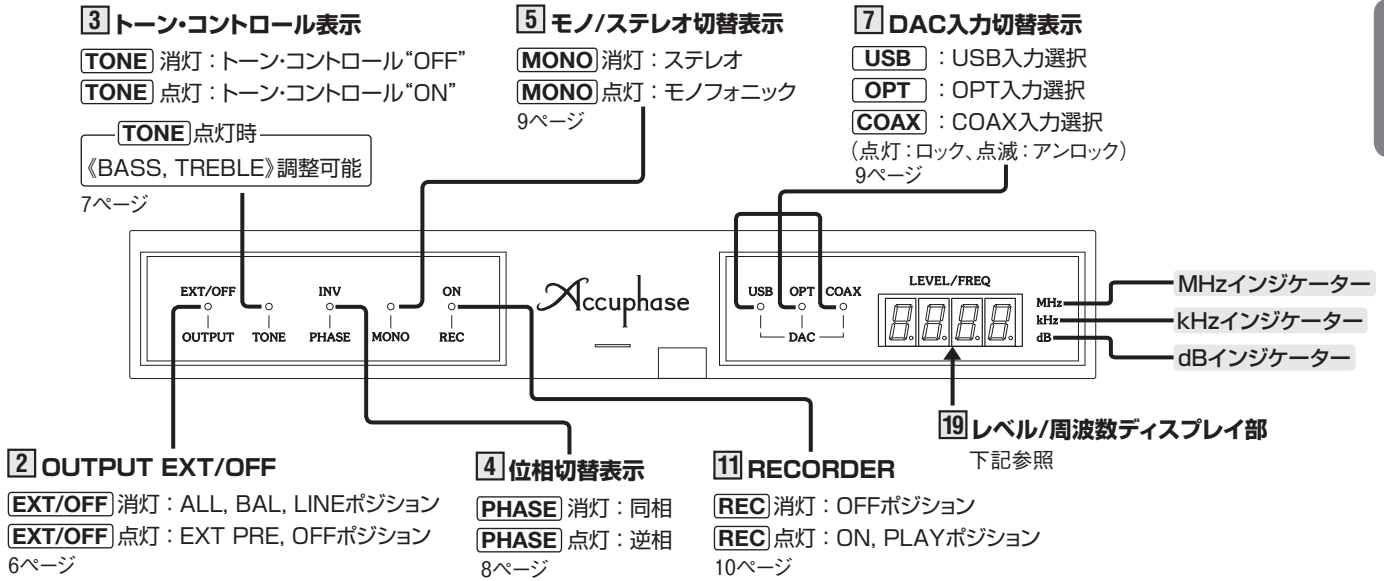
リアパネル(後面)



18 機能ディスプレイ部

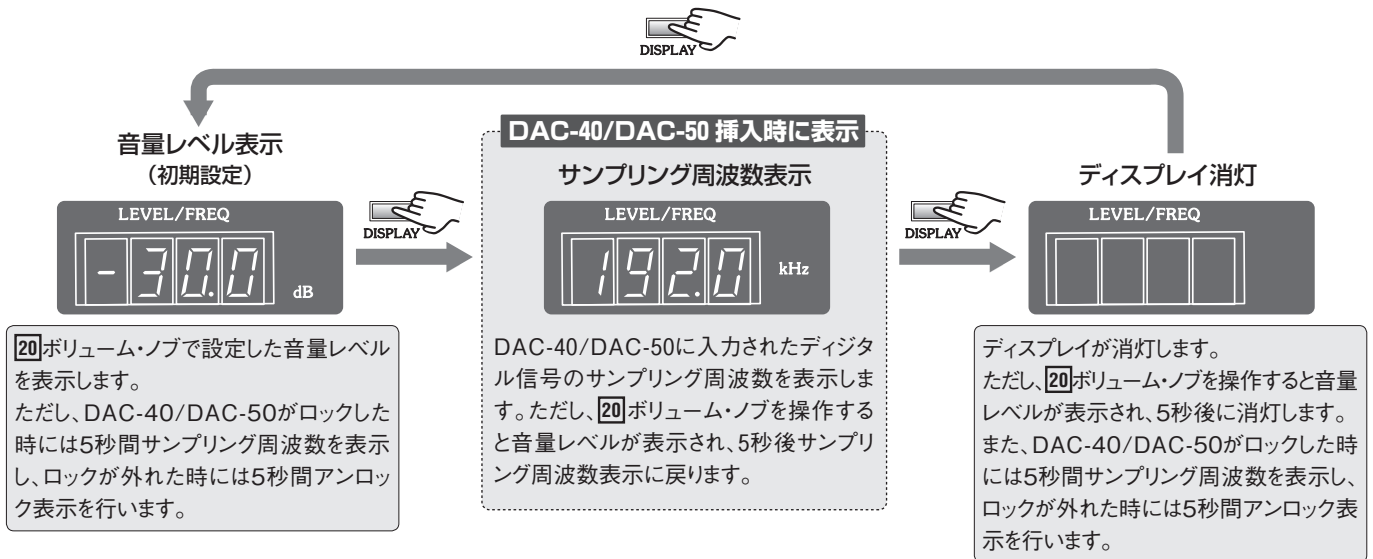
*イラストは説明用ですので、文字等は実際の表示と異なります。

機能ディスプレイ部は各スイッチやボタンで選択した動作状態を、**インジケーター** で表示します。

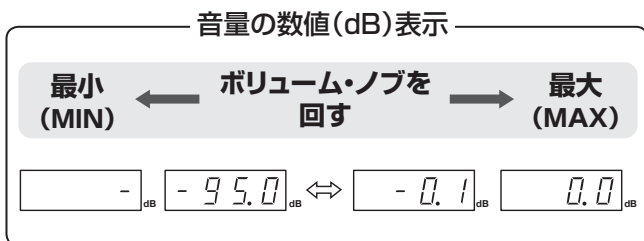


19 レベル/周波数ディスプレイ部

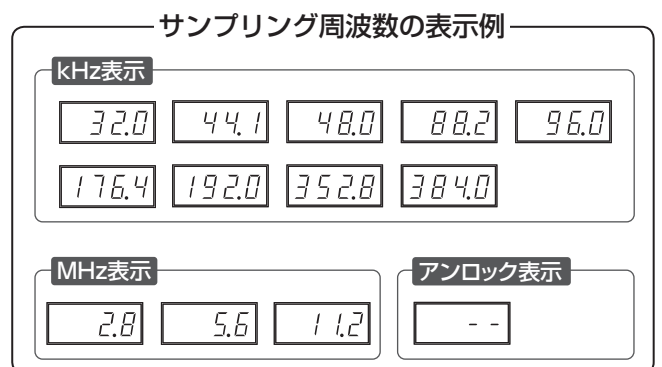
工場出荷時、**19**レベル/周波数ディスプレイ部は**20**ボリュームの音量レベルを表示しますが、本機にデジタル入力ボードDAC-40/DAC-50が挿入されている場合、サンプリング周波数の表示が可能です。表示モードの切り替えは**6**DISPLAYボタンで行います。



- メモ**
- 電源を切っても、表示モードは記憶しています。
 - DAC-10/DAC-20/DAC-30はサンプリング周波数表示ができません。
 - 表示されるサンプリング周波数は、挿入するオプション・ボードの種類により異なります。

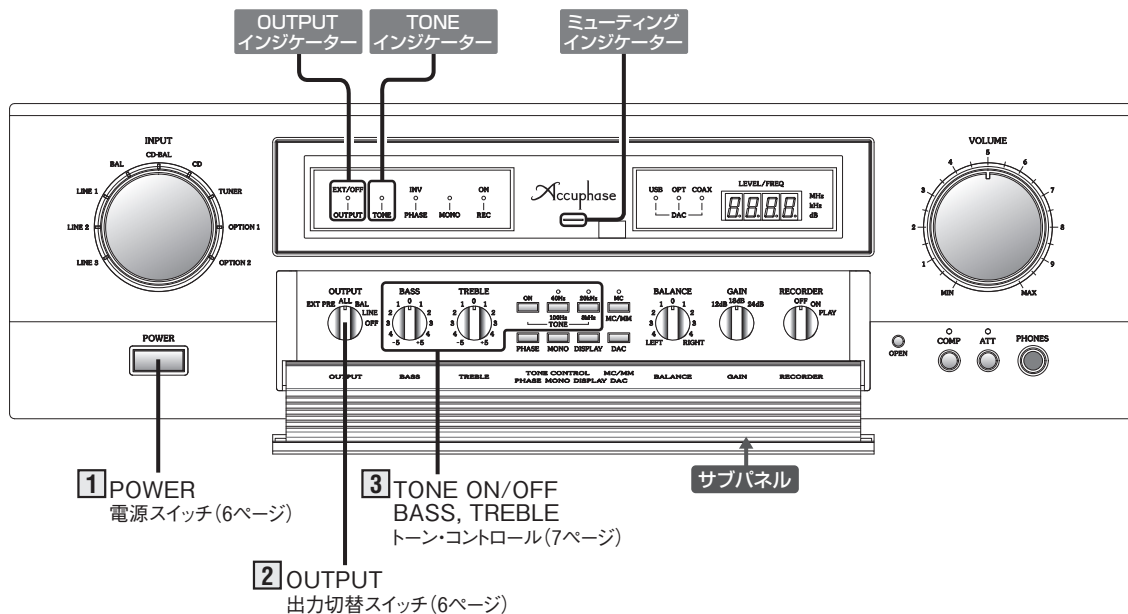


音量の数値(dB)表示にはアッテネーターモード(初期設定)とゲインモードがありますが、ここではアッテネーターモードの表示を示します。ゲインモードの表示については20ページをご参照ください。



3. 各部の動作説明

フロントパネル(前面)



各部の動作説明

1 POWER — 電源スイッチ

押すと電源が入り、再び押すと切れます。電源を入れてから回路が安定するまで約3秒間は、ミュート回路が作動しますので出力はありません。

ミュートが解除されるとミュートインジケータが点灯します。

◆注意

電源スイッチのOFF直後(10秒以内)に再びONしない。ノイズ発生などの原因となることがあります。

外部プリアンプを活用する場合

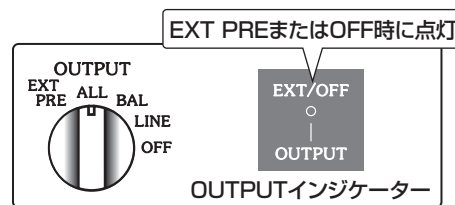
1電源スイッチをOFFにすると、2OUTPUTスイッチのポジションに関係なく外部プリアンプの出力をパワーアンプへ入力することが可能です。

本機とパワーアンプの接続を変えることなく、外部プリアンプをご活用いただけます。

(19ページ参照)

2 OUTPUT — 出力切替スイッチ

バランス、ライン合計3系統の出力のON/OFF、または外部プリアンプに切り替えるためのスイッチです。

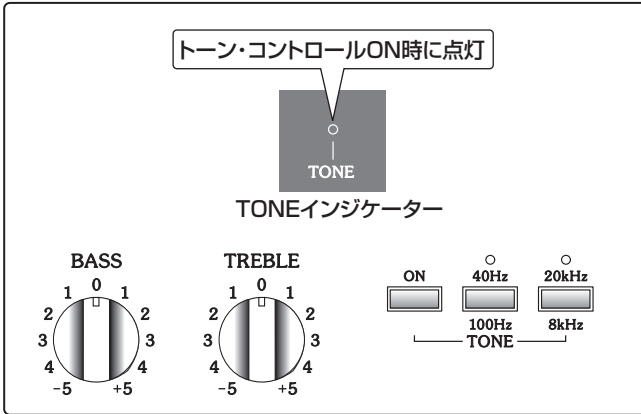


- EXT PRE** : 外部プリアンプの出力信号をパワーアンプへ入力するためのポジションです。(19ページ参照)
- ALL** : 26バランス出力端子と25ライン出力端子から出力します。
- BAL** : 26バランス出力端子のみから出力します。
- LINE** : 25ライン出力端子のみから出力します。
- OFF** : 26バランス出力端子からも、25ライン出力端子からも出力しません。

- 通常は“ALL”ポジションでご使用ください。
- “EXT PRE”と“OFF”ポジションのときは18機能ディスプレイ部の“EXT/OFF”のインジケータが点灯します。
- ヘッドフォン出力は2OUTPUTスイッチに関係なく出力されます。ヘッドフォン出力だけを楽しむ場合は“OFF”ポジションにしてください。

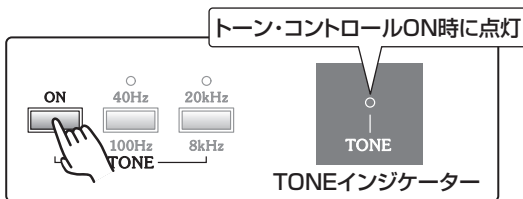
3 TONE ON/OFF, BASS, TREBLE — トーン・コントロール

TONEをON(インジケータ点灯)にすると、BASS(低音)/TREBLE(高音)のコントロールが可能になります。



トーン・コントロールON/OFFボタン

トーン・コントロールをON/OFFするボタンです。

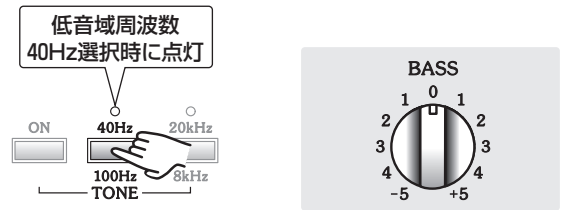


- 「TONE」 消灯：トーン・コントロール “OFF”
- 「TONE」 点灯：トーン・コントロール “ON”

「トーン・コントロール」 ON時に有効な機能

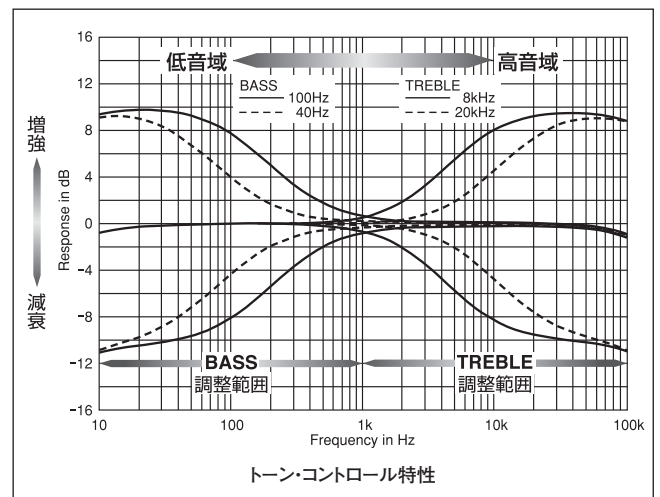
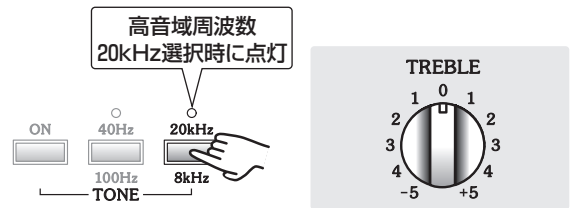
BASS — 低音コントロール

- 100Hz/40Hz：低音域周波数切替ボタン(通常100Hz)
 - 消灯：低音コントロール周波数「100Hz」
 - 点灯：低音コントロール周波数「40Hz」
- 低音域(40Hzまたは100Hz)の周波数特性を連続可変でコントロールします。
 - センターから左に回して低音減衰：0～-8dB
 - センターから右に回して低音増強：0～+8dB

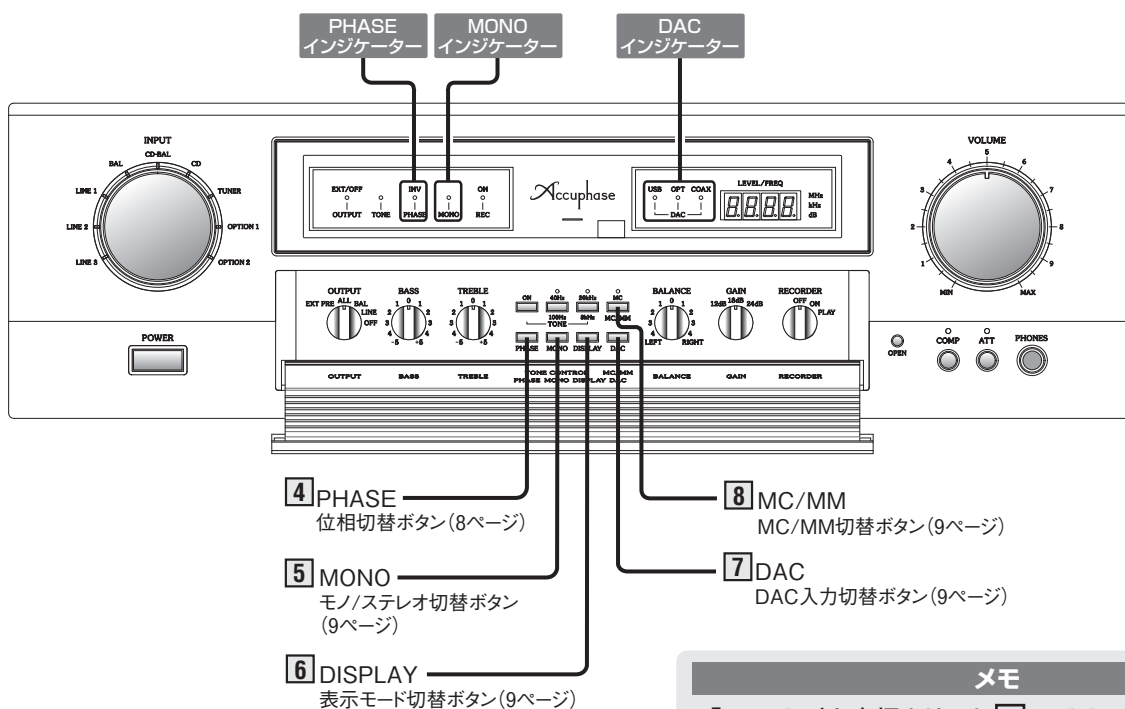


TREBLE — 高音コントロール

- 8kHz/20kHz：高音域周波数切替ボタン(通常8kHz)
 - 消灯：高音コントロール周波数「8kHz」
 - 点灯：高音コントロール周波数「20kHz」
- 高音域(8kHzまたは20kHz)の周波数特性を連続可変でコントロールします。
 - センターから左に回して高音減衰：0～-8dB
 - センターから右に回して高音増強：0～+8dB



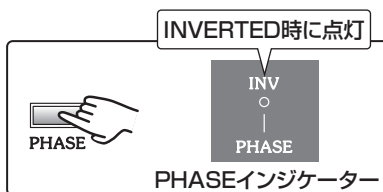
フロントパネル(前面)



各部の
動作説明

4 PHASE — 位相切替ボタン

出力の位相を反転します。



- 「PHASE」消灯：位相「同相」
- 「PHASE」点灯：位相「逆相」

「PHASE」を点灯させると、下記入力端子に入力した信号を反転して、下記出力端子に出力します。

バランスケーブルで接続した機器の極性が、本機と異なる場合などにご使用いただけます。

位相は合わせなくても再生可能です。

設定した位相は電源を切っても入力端子毎に記憶しています。



メモ

- 「PHASE」を点灯させても24 RECORDER(REC)出力の位相は反転しません。
- PHASEボタンを操作すると、25 ライン出力及び26 バランス出力の位相は同時に切り替わります。個別に切り替えることはできません。
- 「PHASE」を点灯させても27 外部プリアンプ(ライン)入力及び28 外部プリアンプ(バランス)入力の位相を反転させることはできません。

参考1

PHASE設定により、26 バランス出力端子のピンの極性は以下のように切り替わります。

PHASE消灯時		PHASE点灯時
①：グラウンド	⇨	グラウンド
②：インバート(-)	⇨	ノン・インバート(+)
③：ノン・インバート(+)	⇨	インバート(-)

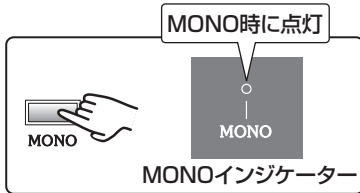
参考2

ソース側機器と出力側機器の極性から本機のPHASE設定を求めると、下記一覧表のようになりますので参考にしてください。

ソース側機器(極性)	出力側機器(極性)	本機のPHASE設定
1 バランス3番(+)	⇒ バランス3番(+)	⇒ 同相(PHASE 消灯)
2 バランス3番(+)	⇒ バランス2番(+)	⇒ 逆相(PHASE 点灯)
3 バランス2番(+)	⇒ バランス3番(+)	⇒ 逆相(PHASE 点灯)
4 バランス2番(+)	⇒ バランス2番(+)	⇒ 同相(PHASE 消灯)
5 ライン(RCA)	⇒ バランス3番(+)	⇒ 同相(PHASE 消灯)
6 ライン(RCA)	⇒ バランス2番(+)	⇒ 逆相(PHASE 点灯)
7 バランス3番(+)	⇒ ライン(RCA)	⇒ 同相(PHASE 消灯)
8 バランス2番(+)	⇒ ライン(RCA)	⇒ 逆相(PHASE 点灯)
9 ライン(RCA)	⇒ ライン(RCA)	⇒ 同相(PHASE 消灯)

5 MONO — モノ/ステレオ切替ボタン

ステレオとモノフォニックを切り替えます。
モノフォニックでは、左右チャンネルの信号をミックスし、左右同じ信号を出力します。



- 「MONO」消灯：ステレオ
- 「MONO」点灯：モノフォニック

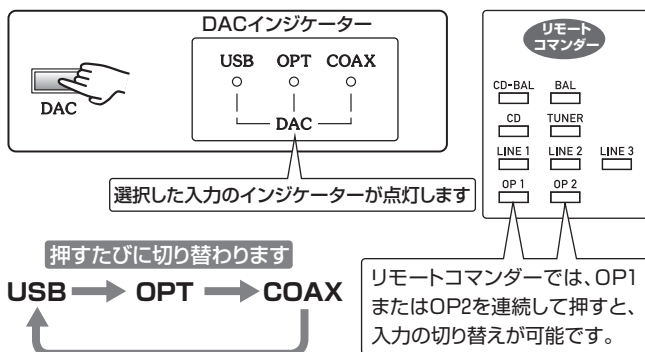
6 DISPLAY — 表示モード切替ボタン

19レベル/周波数ディスプレイ部の表示モードを切り替えます。
詳細については5ページの19レベル/周波数ディスプレイ部をご参照ください。

7 DAC — DAC入力切替ボタン

この機能は、『デジタル入力ボード DAC-40/DAC-50』が増設されているときのみ有効です。
DAC-50の詳細は22, 24ページ参照。

21オプション・ボード増設スロットOPTION1またはOPTION2にDAC-40/DAC-50を増設し、16INPUTセクターでOPTION1またはOPTION2を選択しているとき、DAC-40/DAC-50の入力を切り替えるボタンです。



* 入力信号をロックしないと、DACインジケータは点滅します。

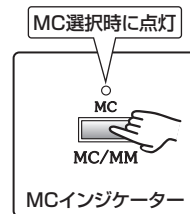
◆注意

- ソース側機器のCOAXIAL (同軸) 出力端子とアナログ出力端子 (バランス/ライン共) から、本機へ同時に入力しないでください。同一機種同士で同時に接続して使用すると、アースがループになって、ハムやノイズが発生する原因となります。
- DAC-30は電源を入れ直す、または16INPUTセクターでOPTIONを選び直す①COAXIAL ②OPTICAL ③USBの順位で入力された信号を自動ロックします。
- DAC-10/DAC-20/DAC-30の「COAXIAL、OPTICAL、USB (DAC-30のみ) の各端子」選択方法は、再生しない入力ケーブルを外すか、再生しないソース側機器の電源を切ってください。
* USB端子に接続したPCの設定や操作方法はPCの取扱説明書をご覧ください。

8 MC/MM — MC/MM切替ボタン

この機能は、『アナログ・ディスク入力ボードAD-20/AD-30/AD-50』が増設されているときに有効です。
AD-50の詳細は23～24ページ参照。

AD-20/AD-30/AD-50でイコライザー・アンプ (アナログ・ディスクを再生するときに必要なアンプ回路) のゲイン (MC/MM) を切り替えます。



- 「MC」消灯：MMカートリッジ
- 「MC」点灯：MCカートリッジ

MM

出力電圧が高いMM (ムービング・マグネット) 型カートリッジを使用する場合のポジションです。
入力インピーダンスは47kΩ固定です。
(23ページ参照)

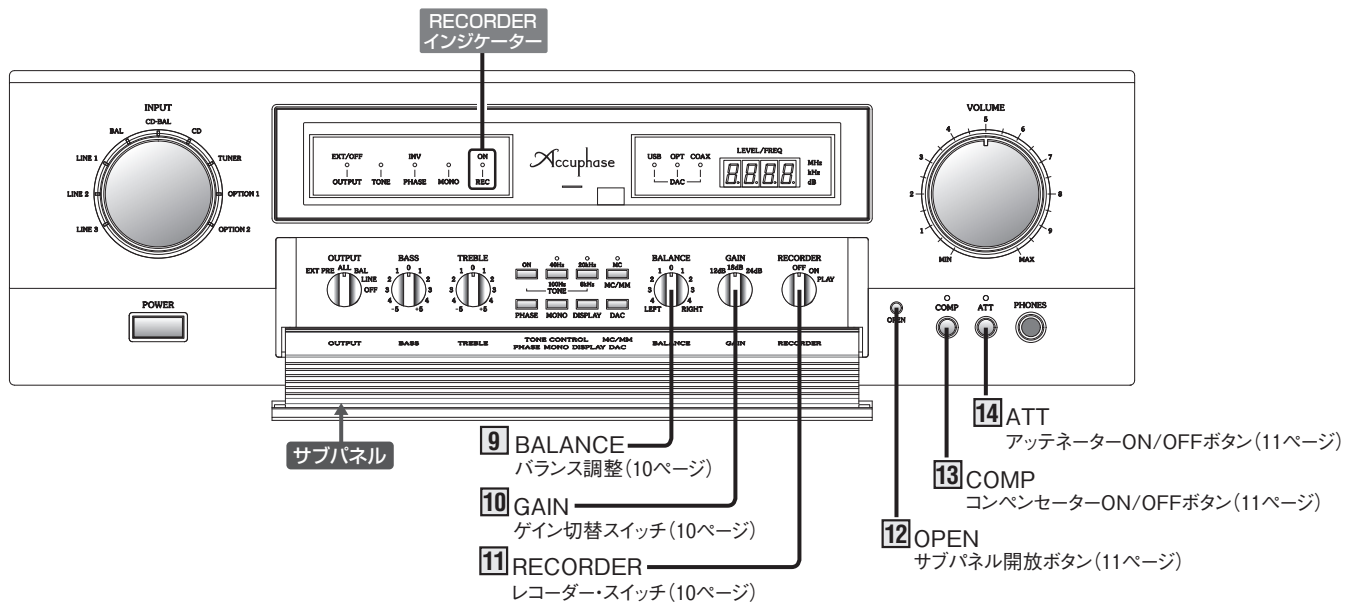
MC

出力電圧が低いMC (ムービング・コイル) 型カートリッジを使用する場合のポジションです。
入力インピーダンスはボード上にあるディップ・スイッチで設定してください。
(23ページ参照)

◆注意

- 本体のMC/MM切り替えは、16INPUTセクターでAD-20/AD-30/AD-50を増設したオプション・ボード増設スロットのポジションを選んで行います。
- AD-20/AD-30/AD-50のボード上にあるMC/MM切替ディップ・スイッチによる設定よりも、本体の8MC/MMボタンによる設定が優先されます。
- 「MC入力インピーダンス」と「サブソニック・フィルター」の設定は、ボード上での設定となり、本体での切り替えはできません。(23ページ参照)
- 本機はアナログ・ディスク入力ボードAD-9、AD-10も使用できますが、この場合のMC/MM切り替えはボード上での設定となり、本体の8MC/MM切替機能は動作しません。

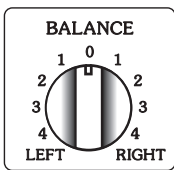
フロントパネル(前面)



各部の
動作説明

9 BALANCE — バランス調整

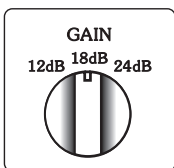
左右の音量バランスを調整することができます。



●通常はセンター(0)で使用します。

10 GAIN — ゲイン切替スイッチ

本機のボリュームMAX時の増幅度を12dB、18dB、24dBの中から選択します。



12dB : ゲイン小
18dB : ゲイン中
24dB : ゲイン大
●通常は18dBで使用します。

音楽ソフトの録音レベル、ソース側機器の出力、パワーアンプのゲイン、スピーカーの能率などにより、通常プリアンプのボリュームの位置は大きく変化します。

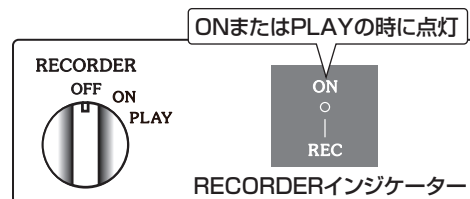
10 GAINスイッチは本機のボリュームMAX時のゲインを切り替えて、お好みの位置でボリューム・コントロールを可能にするためのスイッチです。

12dBではボリュームの位置がMAXに近づき、24dBではMINに近づきます。

11 RECORDER — レコーダー・スイッチ

24 RECORDER端子にレコーダーを接続して録音/再生を切り替えるスイッチです。

録音/再生の操作は21ページ参照



OFF

録音を行わない通常のポジションです。

- 24 REC端子に信号は出力されません。
- 25 ライン出力端子及び 26 バランス出力端子には 16 INPUTセレクトターで選択したプログラムソースを出力します。

ON

レコーダーを使用して録音する場合のポジションです。

- 24 REC端子に、16 INPUTセレクトターで選択したプログラムソースを出力しますので、レコーダーでの録音が可能です。
- 25 ライン出力端子及び 26 バランス出力端子には 16 INPUTセレクトターで選択したプログラムソースを出力します。

PLAY

レコーダーの再生信号をお聴きいただくためのポジションです。

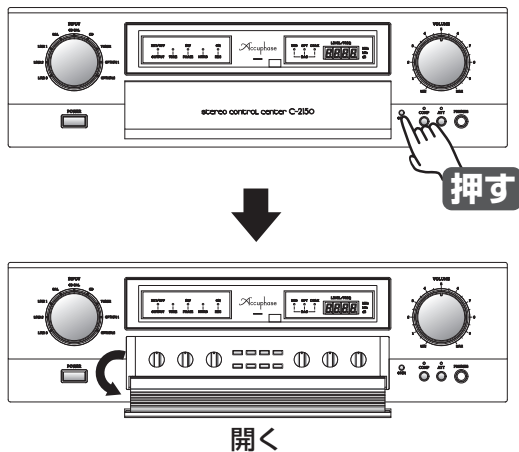
- 25 ライン出力端子及び 26 バランス出力端子には、24 PLAY端子に入力されたレコーダーからの再生信号を出力します。
- 24 REC端子には、16 INPUTセレクトターで選択した入力信号を出力しますので、レコーダーでの録音が可能です。
- 3ヘッド・テープレコーダーを接続した場合には、録音と同時に再生が可能です。
- ヴォイシング・イコライザーを 24 RECORDER端子に接続する場合にも、このポジションにします。

12 OPEN — サブパネル開放ボタン

押すとサブパネルが開きます。閉める時はサブパネルを直接手で閉めてください。

開けるとき

サブパネルを開けるには**12** OPENボタンを押します。

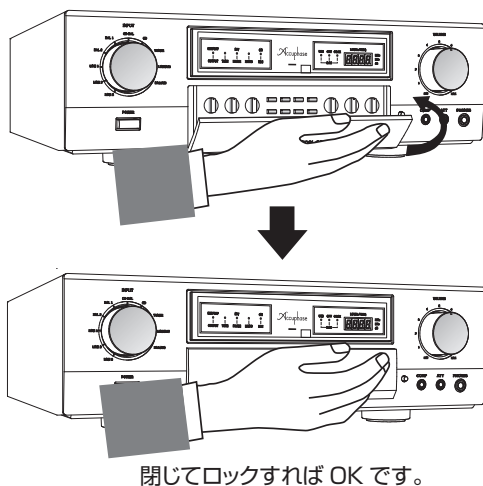


注意

サブパネルの縁に指をかけて直接開けないでください。
サブパネル開閉機構を破損する恐れがあります。

閉じるとき

開放したサブパネルの下を持ち上げて閉じます。



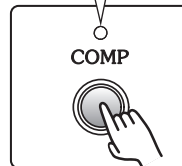
サブパネル内で点灯しているインジケータはサブパネルを閉じると消灯します。

閉まる寸前でインジケータが消灯する動作は異常ではありません。

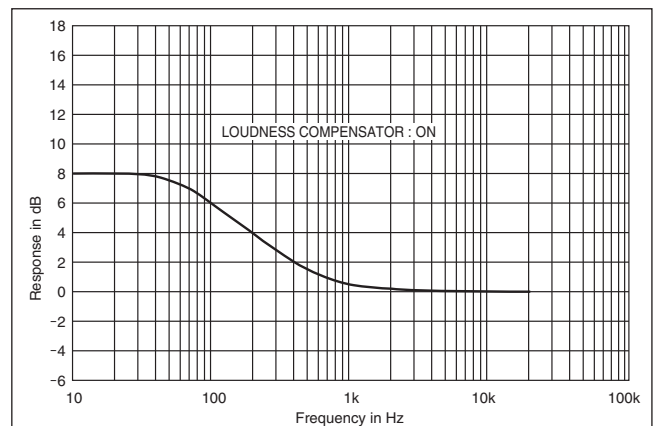
13 COMP — コンペンセーター(聴感補正) ON/OFFボタン

小音量で聴く場合の聴感上のエネルギー・バランスを調整する機能です。人間の聴感特性は音量が小さくなるにつれて特に低音が不足して聴こえます。低音不足を補うために大変有効です。

コンペンセーター動作時に点灯



- 「COMP」消灯：コンペンセーター“OFF”
- 「COMP」点灯：コンペンセーター“ON”

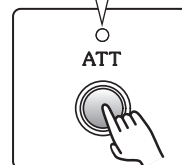


コンペンセーター特性

14 ATT — アッテネーターON/OFFボタン

出力レベルを瞬時に下げることができます。減衰量は20dB ($\frac{1}{10}$ の音量)です。リモート・コマンダー RC-230でもON/OFFが可能です

アッテネーター動作時に点灯



- 「ATT」消灯：アッテネーター“OFF”
- 「ATT」点灯：アッテネーター“ON”

レベル/周波数ディスプレイ部の音量表示が

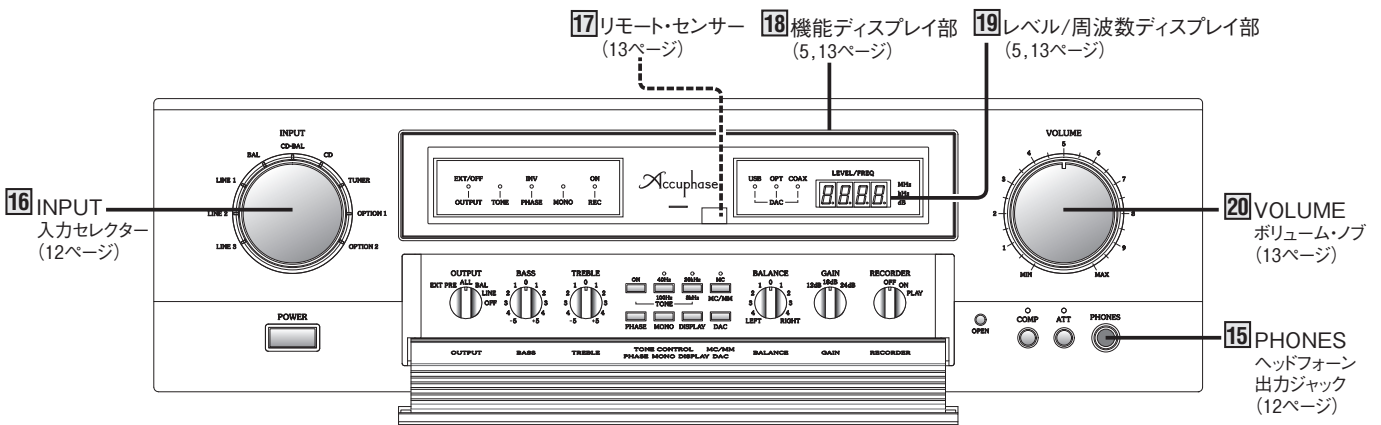
《ゲイン・モード》時 (20ページ参照)

アッテネーターON時、**19**レベル/周波数ディスプレイ部の表示は、現在のレベルに-20dB加算された値に変わります。OFF時は、元のレベル値に戻ります。

メモ

6 DISPLAYボタンOFFの場合、ボタンを押すと、5秒間値を表示後、再び消灯します。

フロントパネル(前面)



各部の
動作説明

15 PHONES — ヘッドフォン出力ジャック

ヘッドフォンで演奏を楽しむ場合、ヘッドフォン・プラグをこのジャックに差し込んでください。

- ヘッドフォンのレベルは本機の **20** ボリューム・ノブでコントロールしてください。
- インピーダンス8Ω以上のヘッドフォンをご使用ください。ただし、インピーダンスが高くなるにつれ、得られる音量が小さくなります。インピーダンスが100Ω以上の場合や能率の低いヘッドフォンはご注意ください。
- 2** OUTPUTスイッチで“EXT PRE”を選択した場合でも、本機の **16** INPUTセクターや **11** RECORDERスイッチで選択された信号が **15** ヘッドフォン出力ジャックから出力されます。

16 INPUT — 入力セクター

入力端子を選択するためのセクターです。選択した入力端子のインジケータが点灯します。リモート・コマンダーRC-230でも切り替えが可能です。

- TUNER, CD, LINE 1 ~ LINE 3**
リアパネルのライン入力端子を選択します。
- CD-BAL, BAL**
リアパネルのバランス入力端子を選択します。
- OPTION 1, OPTION 2**
リアパネルのオプション・ボード増設スロットに増設した入力端子を選択します。

※「INPUT」ノブは指標がなく、エンドレス(ストッパーのない)のロータリースイッチを使用しています。

メモ

本機は専用のヘッドフォン・アンプを内蔵し、常に信号をヘッドフォン出力ジャックから出力します。

注意

ヘッドフォンで演奏中、**2** OUTPUTスイッチをOFF以外にするとスピーカーから音が出ます。急に大きな音が出ないように、音量に注意してください。

INPUT

INPUTセクターボタン

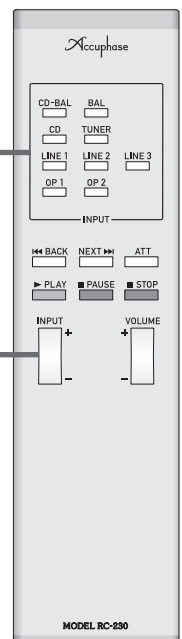
本体の **16** INPUTセクターの周囲にある、選択した入力端子のインジケータが点灯します。

INPUT

INPUTセクターボタン

本体の **16** INPUTセクターの周囲にある、入力端子のインジケータが移動します。

- +** 点灯したインジケータが右方向に回転します。
- 点灯したインジケータが左方向に回転します。



17 リモート・センサー

本機に付属しているリモート・コマンダーRC-230の赤外線信号を受信する窓です。リモート・コマンダーを使用するときは、発光部をここに向けてください。(12, 17ページ参照)

18 機能ディスプレイ部

本機の動作状態をインジケータで表示します。
詳細は5ページの**18**機能ディスプレイ部をご参照ください。

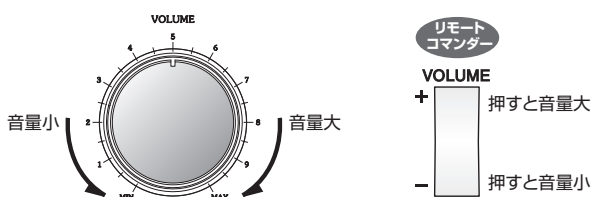
19 レベル/周波数ディスプレイ部

20ボリューム・ノブで設定した音量レベルを表示します。デジタル入力ボードDAC-40/DAC-50が挿入されている場合は、サンプリング周波数の表示が可能です。

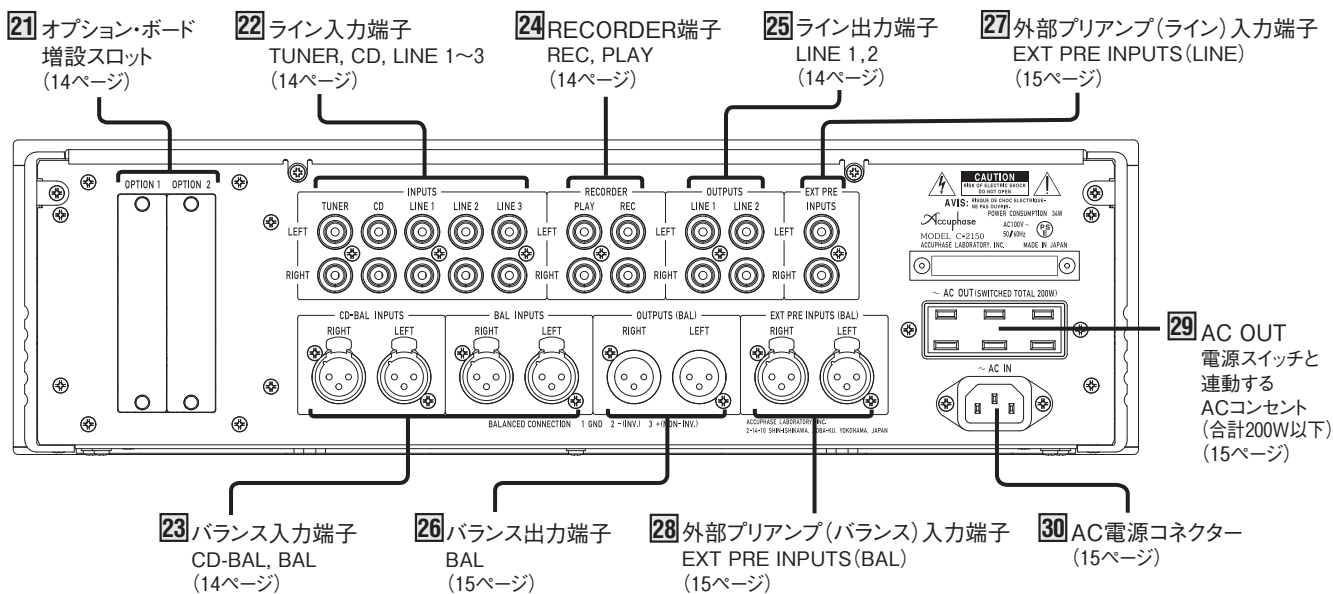
詳細は5ページの**19**レベル/周波数ディスプレイ部をご参照ください。

20 VOLUME — ボリューム・ノブ

右に回すと音量が大きくなり、左に回すと小さくなります。その音量が数値(dB)で**19**レベル/周波数ディスプレイ部に表示されます。リモート・コマンダーRC-230でも同様に動作させることができます。



リアパネル(後面)



21 オプション・ボード増設スロット

デジタル入力ボードDAC-50、アナログ・ディスク入力ボードAD-50、ライン入力ボードLINE-10の3種類のオプション・ボードを取付けます。(22~25ページ参照)

* DAC-10/DAC-20/DAC-30/DAC-40、AD-9/AD-10/AD-20/AD-30を使用する場合は22~23ページを参照。

22 ライン入力端子 — TUNER、CD、LINE 1~3

一般的なハイレベル入力端子です。

* LINE(ライン)とUNBALANCE(アンバランス)は同一です。本機では主にLINE(ライン)として表記しています。

注意

レコード・プレーヤーの出力を接続してアナログ・ディスクの演奏はできません。アナログ・ディスクの演奏にはオプションのAD-50が必要です。

アナログ・ディスクの演奏は23ページ参照。

レコード・プレーヤーの接続は16ページ参照。

23 バランス入力端子 — CD-BAL、BAL

外来誘導雑音の排除能力に優れた、バランス伝送用入力端子です。CDプレーヤーやチューナーなどのバランス出力を持つ機器を接続してください。

ピンの極性は、



- ①: グラウンド
- ②: インバート(-)
- ③: ノン・インバート(+)

となっていますので、ソース側の機器との極性を合わせて接続してください。

* ソース側機器と極性が本機と逆の場合は**4** PHASEボタンで合わせることができます。(8ページ参照)

* バランス用オーディオ・ケーブルは当社で別売しています。(25ページ参照)

24 RECORDER端子 — REC、PLAY

レコーダーを接続し、録音・再生が可能です。(詳細は21ページ参照)

25 ライン出力端子 — LINE 1, 2

通常のピンプラグ付オーディオ・ケーブルで、パワーアンプの入力端子と接続します。

26 バランス出力端子 — BAL

外来誘導雑音の排除能力に優れた、バランス伝送用出力端子です。パワーアンプが、バランス入力端子を装備している場合には、良質なオーディオ信号の伝送が可能です。ピンの極性は、



- ①：グラウンド
- ②：インバート(-)
- ③：ノンインバート(+)

となっていますので、パワーアンプ側の極性を確認して接続してください。

- 入力ソース側またはパワーアンプ側の極性が本機と逆の場合は、**4** PHASEボタンで合わせることができます。(8ページ参照)
- バランス用オーディオケーブルは当社で別売しています。(25ページ参照)

27 外部プリアンプ(ライン)入力端子 — EXT PRE INPUTS(LINE)

外部のプリアンプ出力を、ライン接続で入力します。(詳しい説明は19ページ参照)

- **2** OUTPUTスイッチをEXT PREポジション、もしくは本機の電源を切ると、この端子の入力信号は**25**ライン出力端子に出力されます。

※**26**バランス出力端子に出力することはできません。

28 外部プリアンプ(バランス)入力端子 — EXT PRE INPUTS(BAL)

外部のプリアンプ出力を、バランス接続で入力します。(詳しい説明は19ページ参照)

- **2** OUTPUTスイッチを「EXT PRE」ポジション、もしくは電源を切ると、この端子の入力信号は**26**バランス出力端子に出力されます。

※**25**ライン出力端子に出力することはできません。

29 AC OUT — 電源スイッチと連動するACコンセント

本機と接続する機器の電源をこのコンセントから取ると、**1**電源スイッチをON/OFFすることにより、他の機器の電源も同時にON/OFFすることができます。

注意

接続する機器の消費電力は合計200Wを超えないようにする。

30 AC電源コネクター

付属の電源コードを接続します。

警告

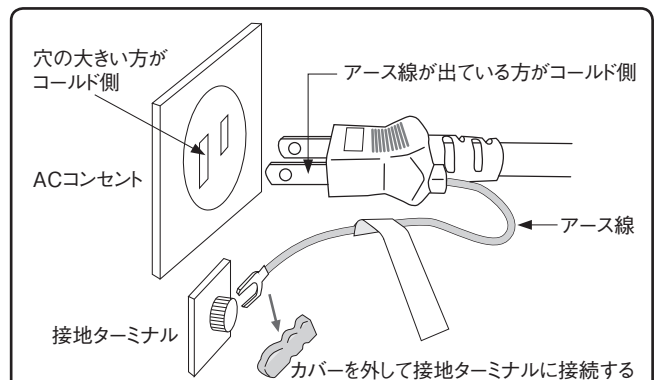
電源は必ずAC100V家庭用コンセントを使用する。

■電源コードに付いているアース線の接続

付属の電源コードには、プラグ側に接地用アース線が付いています。感電防止のため、このアース線を接地用ターミナルに接続すると、より一層安全になります。接地ターミナルの工事は、電気工事店にご相談ください。

■入・出力端子や、AC電源コネクター、電源プラグには接点復活剤や導電剤などは絶対に使用しない。

樹脂部が経年劣化で破損したり端子部がショートをおこし、感電や火災あるいは故障の原因になる事があります。(接点復活剤、導電剤使用による不具合は保証外となります。)



警告

アース線の接地用ターミナルへの接続は、必ずプラグをコンセントにつなぐ前に行ってください。また、アース線を外すときは必ずプラグをコンセントから抜いてから行ってください。

■電源コードの極性表示

本機は、トランスの巻き方向、部品の配線など極性を管理して、電源プラグのアース線が出ている方がコールド側になっています。機器の接続を統一したい場合は参考にしてください。

◆注意

- 室内コンセントの極性は一般に、向かって左側(穴が右に比べて大きい)がコールド側です。
- 大地に対する電位は屋内配線の状況によって変化します。このためチェッカーなどを使用して測定した場合、電位が逆表示することがあります。
- 本機の**29**AC OUTは、下側がコールドです。

4. 接続図

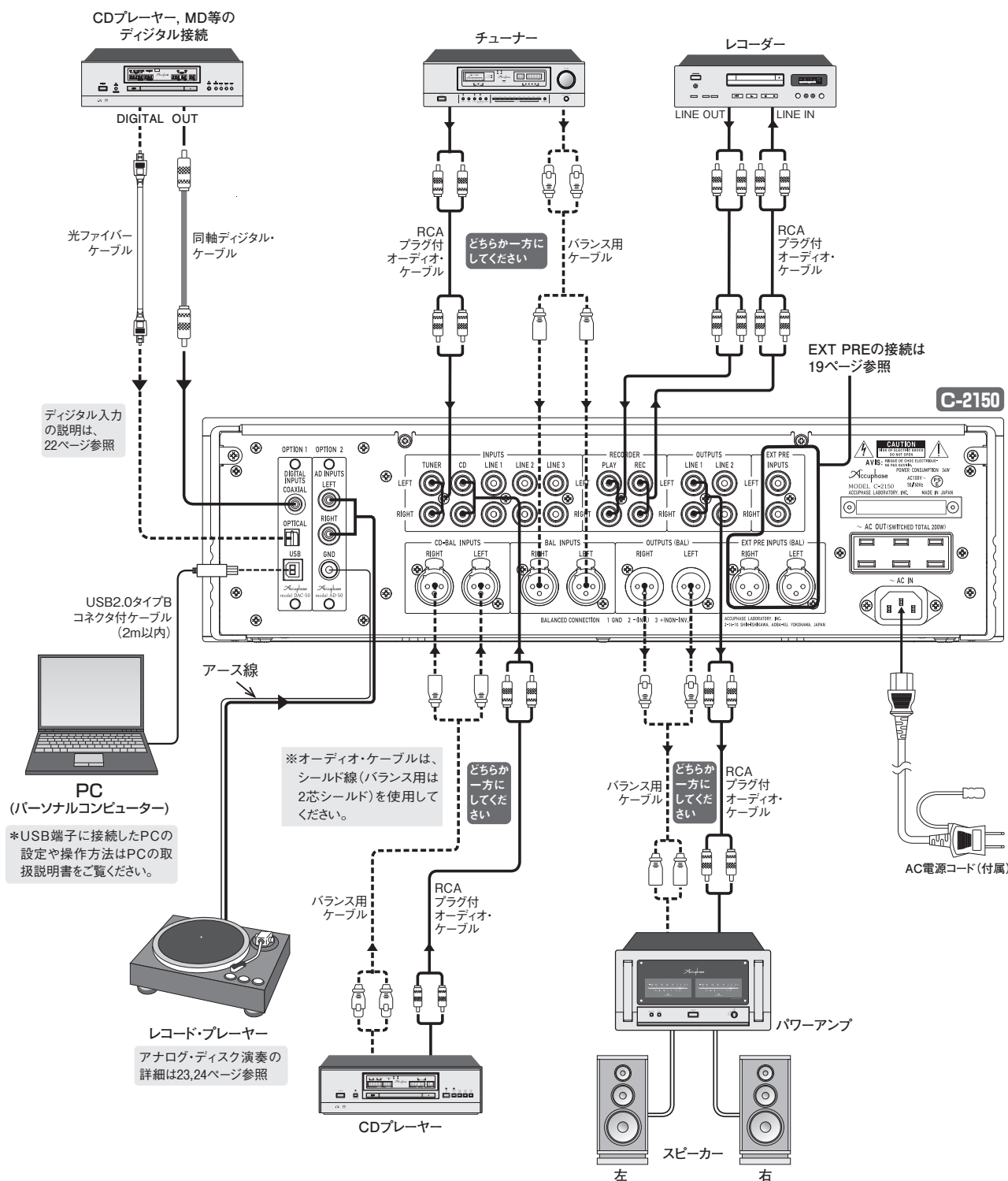
注意 : 接続するときは、必ず各機器の電源を切る。

- 注意**
- アナログ出力の接続はオーディオケーブルを使用し、LEFT(左)、RIGHT(右)を正しく接続してください。
 - 同一機種同士でバランス用とライン用ケーブルは同時に接続して使用しないでください。アースがループになって、ノイズを発生させる原因となります。

イラストはオプション(別売)を増設した場合の接続例

- OPTION 1 : デジタル入力ボード [DAC-50]
- OPTION 2 : アナログ・ディスク入力ボード [AD-50]

接続図
リモート・コントロール

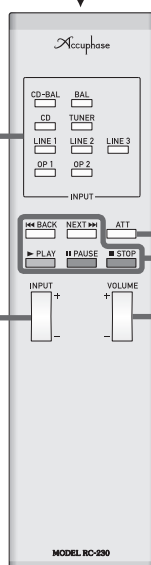


5. リモート・コントロール

リモート・コマンダー RC-230の機能

⑥ 発光部

本体の⑬リモート・センサーに向けます。



① INPUT

INPUTセレクトボタン(本体の⑬INPUTセレクト)
本体の⑬INPUTセレクトの周囲にある、選択した
入力端子のインジケータが点灯します。

② INPUT

INPUTセレクトボタン(本体の⑬INPUTセレクト)
本体の⑬INPUTセレクトの周囲にある、入力端子
のインジケータが移動します。

+ 点灯したインジケータが右方向に回転します。

- 点灯したインジケータが左方向に回転します。

⑤ ATT

アッテネータON/OFFボタン(本体の⑭アッテネータ
ON/OFFボタン)
出力レベルを瞬時に下げることができます。減衰量は
20dB(1/10の音量)です。

④ CDプレーヤーのコントロールボタン

アキュフェーズのCDプレーヤーをコントロールできます。
但し、SA-CD/CDトランスポートDP-100のコントロール
はできません。

③ VOLUME

ボリューム調整ボタン(本体の⑯ボリューム・ノブ)

+ 本体の⑯ボリューム・ノブが右に回転し音量が
大きくなります。

- 本体の⑯ボリューム・ノブが左に回転し音量が
小さくなります。

ご使用方法

リモート・コマンダーの発光部を本体の⑬リモート・センサーに向けて、
図の範囲内でお使いください。

乾電池について

■乾電池の交換時期

操作距離が短くなってきたら乾電池の交換時期ですので、新しい乾電池
と交換してください。

- 使用する乾電池は、単3形を2個、両方とも新しい乾電池に交換してくだ
さい。
- 乾電池を廃棄するときは、地域の環境保全にご注意ください。

警告

- 乾電池は充電しない。乾電池の破裂や、液漏れにより、火災やけがの原
因となります。
- 電池ケースの電極部に金属類が触れないようにする。

注意

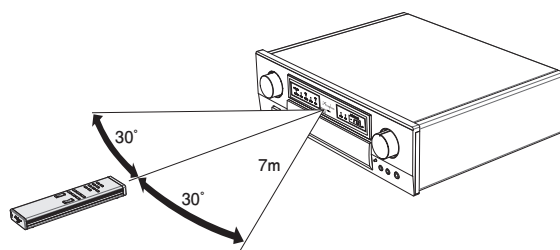
■乾電池について

乾電池は正しく使わないと、液漏れや破裂などの危険があります。

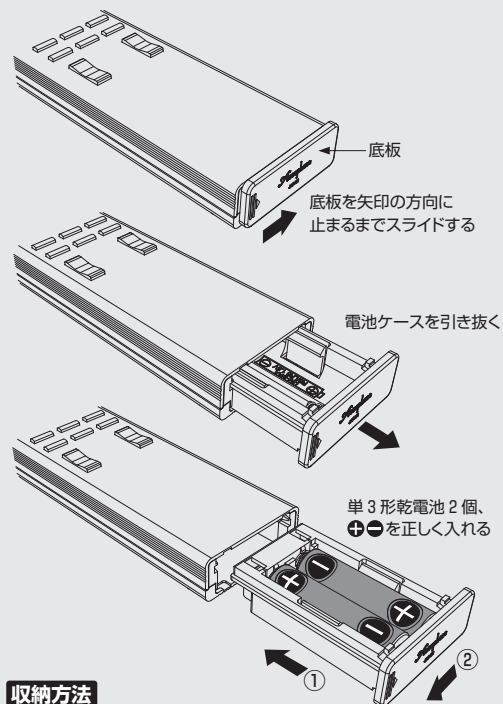
- 乾電池の向きはコマンダーのケースに示されている通り、**+**(プ
ラス)、**-**(マイナス)を正しく合わせる。
- 新しい乾電池と、1度使用したものを混ぜない。
- 種類の違う乾電池を混ぜて使用しない。同じ形状でも、性能の異なる
ものがあります。
- 長時間にわたりコマンダーを使わないときは、乾電池を抜いておく。
- 万一、液漏れを起こしたときは、当社品質保証部にご連絡ください。
漏れた液体が身体についたときは、水でよく洗い流してください。

■リモコンを落としたり、液体をこぼしたりしないようにしてください。

■直射日光の当たる所や暖房器具のそばなど、温度や湿度の高い場所に
置かないようにしてください。



乾電池の交換



収納方法

電池ケースをしっかり押し込んで①
底板を矢印方向にスライドして収納する②

接
続
図

リ
モ
ー
ト
・
コ
ン
ト
ロ
ー
ル

6. ご使用方法

⚠ 注意 : 接続するときは、必ず各機器の電源を切る。

スイッチ類の初期設定

スイッチ類を初期設定に戻したい場合には、以下のように設定します。

2 OUTPUT	: ALL (OUTPUT インジケータ消灯)	7 DAC	: USB (点灯: ロック、点滅: アンロック) (DAC-40/DAC-50 増設時)
3 TONE	: OFF (TONE インジケータ消灯)	8 MC/MM	: MM (MC インジケータ消灯) (AD-20/AD-30/AD-50 増設時)
BASS	: センター (0)	9 BALANCE	: センター (0)
TREBLE	: センター (0)	10 GAIN	: 18 dB
40Hz/100Hz	: 100Hz (40Hz インジケータ消灯)	11 RECORDER	: OFF (REC インジケータ消灯)
8kHz/20kHz	: 8kHz (20kHz インジケータ消灯)	13 COMP	: OFF (COMP インジケータ消灯)
4 PHASE	: 同相 (PHASE インジケータ消灯)	14 ATT	: OFF (ATT インジケータ消灯)
5 MONO	: ステレオ (MONO インジケータ消灯)	16 INPUT	: CD-BAL
6 DISPLAY	: 19 レベル/周波数ディスプレイ部 ON	20 VOLUME	: MIN (下げた状態)

CDプレーヤーで演奏を聴く場合

※接続図は16ページ参照

CDプレーヤーのライン出力をリアパネルの**22**ライン入力端子のCD(またはTUNER, LINE1~3)へ接続します。もし、CDプレーヤーにバランス出力が搭載されていれば、**23**バランス入力端子のCD-BAL(またはBAL)へ接続することも可能です。

ただし、同一機器同士でラインケーブルとバランスケーブルを同時に接続しないでください。アースがループになってノイズを発生させる原因になります。

演奏の手順

- 1** **20** ボリューム・ノブが下がっていることを確認し、本機と共にCDプレーヤーやパワーアンプの電源を“ON”にします。
- 2** **16** INPUTセレクトでCDポジション(または入力したポジション)を選択します。
- 3** CDプレーヤーを演奏状態にして、**20** ボリューム・ノブを上げると演奏が聴こえてきます。**20** ボリューム・ノブを調整して再生状態を確認してください。
- 4** **5** MONOボタンをON(モノフォニック状態)にし、音像が中央に定位することを確認したり、コンペンセーターやアッテネーターなどの効き具合をお試しください。

チューナーで放送を聴く場合

※接続図は16ページ参照

チューナーのライン出力をリアパネルの**22**ライン入力端子のTUNER(またはCD, LINE1~3)へ接続します。もし、チューナーにバランス出力が搭載されていれば、**23**バランス入力端子のBAL(またはCD-BAL)へ接続することも可能です。

ただし、同一機器同士でラインケーブルとバランスケーブルを同時に接続しないでください。アースがループになってノイズを発生させる原因になります。

CD再生と同様に**16** INPUTセレクトで入力端子を選択し、他のスイッチ類のポジションをご確認ください。チューナーが放送局に同調していれば、**20** ボリューム・ノブを上げると放送が聴こえてきます。

メモ 本機の電源OFF時にタイマーでチューナーを録音する場合は、21ページを参照してください。

別システムのプリアンプやAVアンプでの演奏

別システムのプリアンプやAVアンプで演奏を楽しむ場合、その機器の出力を本機の**27**外部プリアンプ(ライン)入力端子、または**28**外部プリアンプ(バランス)入力端子へ接続しておけば、パワーアンプへの接続を変えることなく演奏機器を切り替えることができます。

操作は、**2**OUTPUTスイッチを『EXT PRE』ポジションにするか、もしくは本機の**1**電源スイッチをOFFにします。

メモ : C-2150の電源をOFFにした場合には、**2**OUTPUTスイッチのポジションに関係なく「EXT PRE」と同じ接続・動作になります。

注意 : 接続するときは、必ず各機器の電源を切る。

接続したプリアンプの音量が下がっていることを確認してEXT PREに切り替えてください。

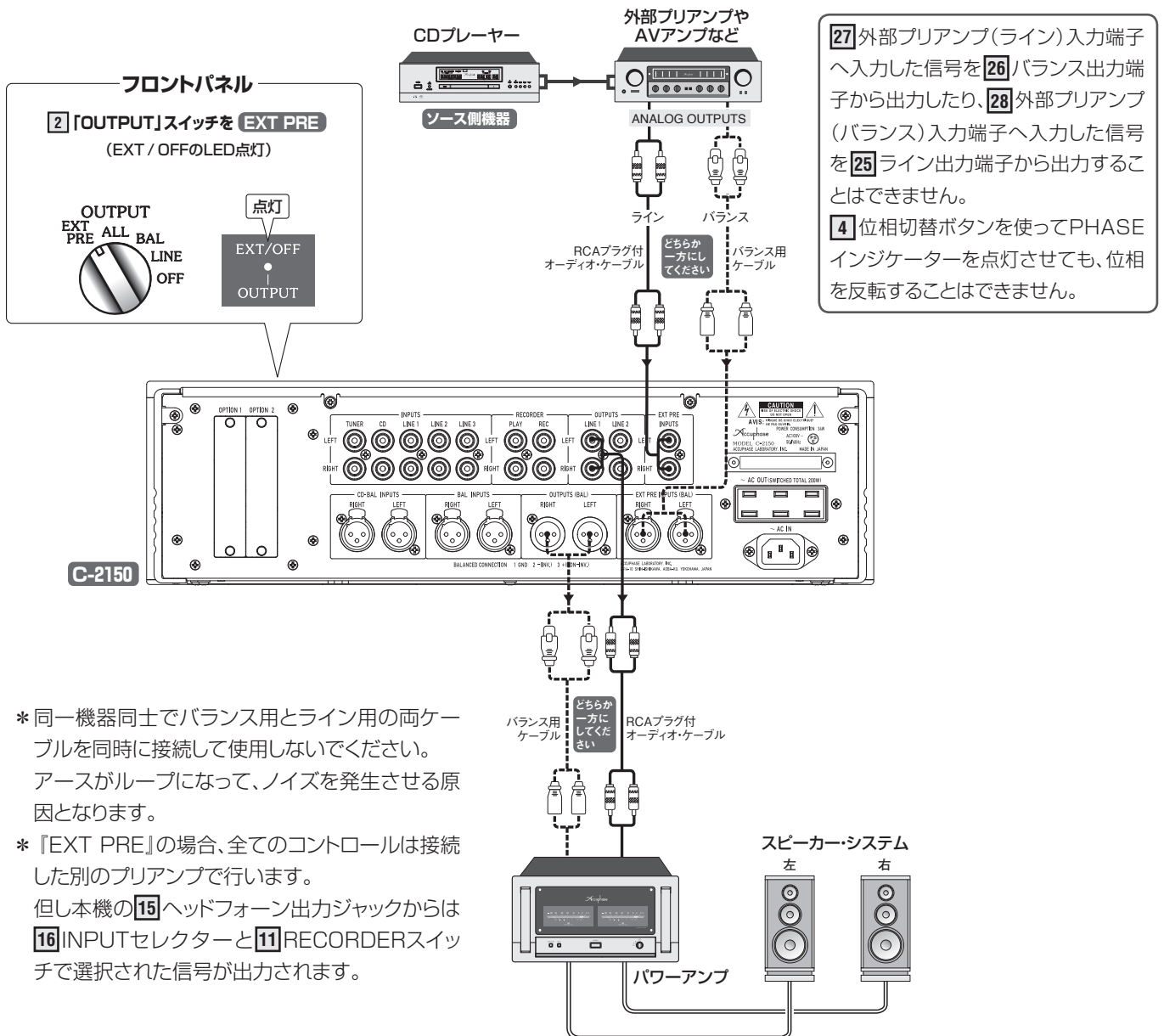
入・出力の接続

ライン接続の場合

27外部プリアンプ(ライン)入力端子 ⇨ **25**ライン出力端子 LINE1, LINE 2から出力

バランス接続の場合

28外部プリアンプ(バランス)入力端子 ⇨ **26**バランス出力端子 BALから出力



ご使用方法

27外部プリアンプ(ライン)入力端子へ入力した信号を**26**バランス出力端子から出力したり、**28**外部プリアンプ(バランス)入力端子へ入力した信号を**25**ライン出力端子から出力することはできません。
4位相切替ボタンを使ってPHASEインジケータを点灯させても、位相を反転することはできません。

- * 同一機器同士でバランス用とライン用の両ケーブルを同時に接続して使用しないでください。アースがループになって、ノイズを発生させる原因となります。
- * 『EXT PRE』の場合、全てのコントロールは接続した別のプリアンプで行います。但し本機の**15**ヘッドフォン出力ジャックからは**16**INPUTセレクターと**11**RECORDERスイッチで選択された信号が出力されます。

レベル/周波数ディスプレイ部の《表示モード》変更

19 レベル/周波数ディスプレイ部の音量表示には《アッテネーター・モード(初期設定)》と《ゲイン・モード》の2つのモードがあります。

《アッテネーター・モード》は、20 ボリューム・ノブを最大に回した状態(MAX)を基準(0dB)として、音量レベルを最小(MIN)まで表示します。

《ゲイン・モード》では、ボリューム・ノブの回転に応じた増幅度(ゲイン)を表示します。

ボリューム・ノブを回した時の表示例

アッテネーター・モード(初期設定)

ボリュームMAX時を基準(0dB)として、減衰量(絞った量)を(dB値)で表示します。

最小(MIN) ← ボリューム・ノブを回す → 最大(MAX)

- dB dB ⇔ dB dB

ゲイン・モード

※10 GAINスイッチで表示が変わります。

ボリュームの回転に応じた入力から出力までの実際の増幅度(ゲイン)を表示します。

最小(MIN) ← ボリューム・ノブを回す → 最大(MAX)

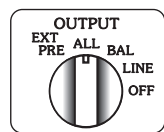
- dB dB ⇔ dB ⇔ dB 12dBポジションの場合

- dB dB ⇔ dB ⇔ dB 18dBポジションの場合

- dB dB ⇔ dB ⇔ dB 24dBポジションの場合

表示モードの切り替え方法

『アッテネーター・モード』(初期設定)から『ゲイン・モード』、『ゲイン・モード』から『アッテネーター・モード』(初期設定)への変更方法



2 OUTPUTスイッチ

ALLポジションにする



14 ATTボタン

2秒以上押す

1 2 OUTPUT スイッチをALLポジションにする。

2 14 ATT ボタンを2秒以上押し続ける。

*ボリュームMIN(絞り切った状態)では - dB表示が同じため各モードの違いはわかりません。

- メモ**
- 14 ATTボタンON時は、表示(数値)に-20dB加算表示されます。(11ページ参照)
 - ディスプレイOFF時は数値が5秒間表示されます。

レコーダーで録音・再生をする場合

接 続

※接続図は16ページ参照

リアパネルの[24]RECORDER端子にレコーダーを接続します。

REC 端子 ⇔ レコーダーのLINE IN端子
 PLAY 端子 ⇔ レコーダーのLINE OUT端子

機 能

[11] RECORDER : ON (録音)

●レコーダーを使用して録音をする場合、[11]RECORDERスイッチをONポジションにすると録音可能となり、ディスプレイ部に“REC ON”のインジケータが点灯します。レコーダー録音用“REC”端子に信号が出力され、録音が可能になります。



録音時に点灯



[11] RECORDER : PLAY (再生)

●レコーダーを使用して再生する場合、[11]RECORDERスイッチをPLAYポジションにするとディスプレイ部に“REC ON”のインジケータが点灯します。同時に録音も可能です。



再生時にも点灯



操 作

再生：プレイバック

[11]RECORDERスイッチをPLAYポジションにして、レコーダーを再生状態にすれば再生音を聴くことができます。レコーダーを再生だけに使用する場合は、RECORDER端子以外にLINEやCDなどの各入力端子を使うことができます。このときは[16]INPUTセクターで選び、[11]RECORDERスイッチは使用しません。

録音：レコーディング

レコーディングの操作手順

- 録音するプログラム・ソースを[16]INPUTセクターで選択し、スピーカーから音を出して確認します。
- [11]RECORDERスイッチをONポジション(“REC ON”インジケータ点灯)にします。[16]INPUTセクターで選択した信号がREC端子から出力されます。
- レコーダーの録音をスタートすれば、スピーカーから出ている音が録音されます。
- 本機のボリューム、アッテネーター、コンペンセーター、バランス、トーン・コントロールは、録音される音には関係しませんので、スピーカーの音量を下げて録音することができます。録音レベルは、レコーダー側で調整してください。
- [11]RECORDERスイッチをPLAYポジションにすると、録音を続けながら、録音されたテープのモニターができます。(3ヘッド・テープレコーダーの場合)。

電源 OFF時のチューナー録音

電源OFFの場合には、リアパネルのTUNER端子に接続されている信号が、[24]RECORDERのREC端子に出力されます。[16]INPUTセクターや[11]RECORDERスイッチなどに関係しませんので、チューナーなどをタイマーで留守録音するときには、本機の電源を入れなくても録音が可能になります。

注意

『電源OFF時』での録音中に本機の電源を入れると、録音が途切れたり、録音が終了してしまいますので、『電源OFF時』での録音中は本機の電源を入れなくてください。

7. オプション・ボード (別売)

本機には、デジタル入力ボードDAC-50、アナログ・ディスク入力ボードAD-50、ライン入力ボードLINE-10の3種類が用意されています。用途に応じて、リアパネルのオプション・ボード増設スロットに増設してください。

- 注意**
- オプション・ボードを抜き差しするときは、必ず本機の電源を切る。
 - デジタル入力ボードDAC-10/DAC-20/DAC-30/DAC-40、アナログ・ディスク入力ボードAD-9/AD-10/AD-20/AD-30、ライン入力ボードLINE-9もC-2150に使用できます。ただし、AD-9/AD-10を使用する場合、C-2150の[8]MC/MMボタンは動作しません。MC/MMの切り替えはそれぞれのボード上で行います。(AD-9/AD-10の取扱説明書を参照してください。)
- *DAC-10/DAC-20/DAC-30の場合[7]DAC入力切替および[19]サンプリング周波数の表示はできません。

オプション・ボードの使用方法

DAC-50 : CDなどをデジタル入力で演奏

*接続例は16ページ参照

オプションの、デジタル入力ボード : DAC-50を増設します。

- * DAC-50はPC(パソコン)とUSBケーブルで接続して演奏が可能です。
- CDプレーヤー、MDなどのデジタル出力の音楽信号を、光ファイバーまたは同軸で接続して演奏します。

ケーブルの接続

USB 端子

USB(タイプB)ケーブル接続端子です。USB端子とPCを接続して使用する場合は付属のUSBユーティリティ2 CDを付属のセットアップガイドに従ってPCにインストールしてください。USBにはバスパワー(200mA以上)が必要です。

USB(タイプB)の接続

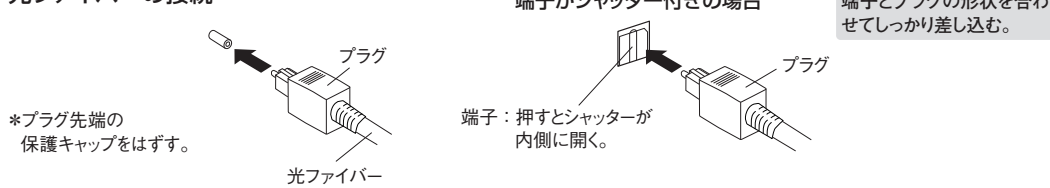


*外したダストカバーは保管してください。

OPTICAL 端子

JEITA規格の光ファイバー接続用端子です。

光ファイバーの接続



*外した保護キャップは保管してください。

COAXIAL 端子

75Ω同軸デジタルケーブル接続用端子です。

演奏の手順

- ① [20]ボリューム・ノブが下がっていることを確認し、本機や関連機器の電源スイッチを入れます。
- ② [16]INPUTセレクターで、DAC-50を増設したスロット(OPTION 1または2)を選択します。
- ③ ソース側機器を演奏状態にして、[20]ボリューム・ノブを上げると演奏が聴こえてきます。

入力の選択方法 本機のサブパネル内[7]DACボタンで選択します。(9ページ参照)



注意

- ソース側機器のCOAXIAL(同軸)出力端子とアナログ出力端子(バランス/ライン共)から、本機へ同時に入力しない。同一機種同士で同時に接続して使用すると、アースがループになって、ハムやノイズが発生する原因となります。
- * USB端子に接続したPCの設定や操作方法はPCの取扱説明書をご覧ください。

AD-50 : アナログ・ディスク (AD) の演奏

*接続例は16ページ参照

- オプションの、アナログ・ディスク入力ボードAD-50を増設します。
- レコード・プレーヤーの出力ケーブルを入力端子へ正しく接続してください。プレーヤーの出力ケーブルと一緒に出ていているアース線はGND(グラウンド)端子へ接続します。

注意

- オプション・ボードを抜き差しするときは、必ず本機の電源を切る。
- AD-9/AD-10/AD-20/AD-30を増設する場合、設定内容は同じですが、ディップ・スイッチの数や位置、また設定方法が異なりますので、必ずAD-9/AD-10/AD-20/AD-30の取扱説明書を参照してください。また、AD-9/AD-10を増設した場合、本体の[8]MC/MMボタンは動作しません。

S1, S2, S3 : ディップスイッチの設定 … 挿入前に設定します。

注意：スイッチの各キーは、先の細いもので完全にセットしてください。指定以外の設定では所定の特性を得られません。

ON キーを止まるまで押し下げる

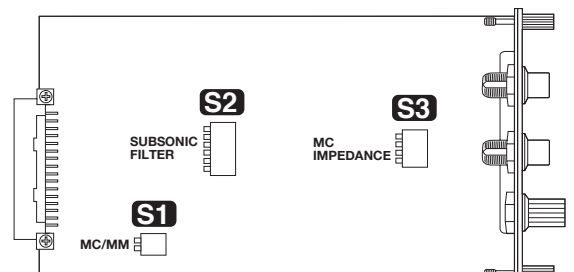


OFF キーを止まるまで上げて水平にする



スイッチを横から見た図を示しています。

- ① S1 : MC/MM
イコライザーゲインの切替
- ② S2 : SUBSONIC FILTER
サブソニック・フィルターのON/OFF
- ③ S3 : MC IMPEDANCE
MCの入ラインピーダンスの選択 : 30/100/300Ω



AD-50 部品面 (S1~S3のスイッチ位置を示す。)

メモ C-2150は、パネル面[8]MC/MMボタンの切り替えが優先されるため、ボード上のS1の設定は必要ありません。

① S1: MC/MM—イコライザーゲインの切替…パネル面[8]MC/MMボタンの切り替えが優先

スイッチを正面から見た図を示しています。

MM **出荷位置**
1, 2 : OFF

MC 1, 2 : ON

MM : 高出力電圧のMM型カートリッジ

ゲイン : 40dB
入ラインピーダンス : 47kΩ

MC : 出力電圧が低いMC型カートリッジ

ゲイン : 66dB
入ラインピーダンス : S3で切り替え

メモ AD-50を本機に増設して使用する場合には、S1ディップ・スイッチの設定は必要ありません。

② S2 : SUBSONIC FILTER—サブソニック・フィルターのON/OFF…ボード上で設定

スイッチを正面から見た図を示しています。

OFF **出荷位置**
1, 2, 3, 4, 5, 6 : OFF

ON 1, 2, 3, 4, 5, 6 : ON

このフィルターは、超低域25Hz以下を-12dB/octaveの減衰特性でカットし、超低域ノイズが可聴帯域内へ悪影響をおよぼすことを防ぎます。レコードに大きな反りがあったり、超低域の振動によりウーファーがゆれたりするときに大変有効です。

③ S3 : MC IMPEDANCE—MCの入ラインピーダンスの選択…ボード上で設定

スイッチを正面から見た図を示しています。

300Ω **出荷位置**
1, 2, 3, 4 : OFF

100Ω 1, 2 : ON
3, 4 : OFF

30Ω 1, 2 : OFF
3, 4 : ON

一般的には、MCカートリッジの内部インピーダンスが

20Ω以上 : 100Ωまたは300Ωに設定
20Ω以下 : 30Ωまたは100Ωに設定

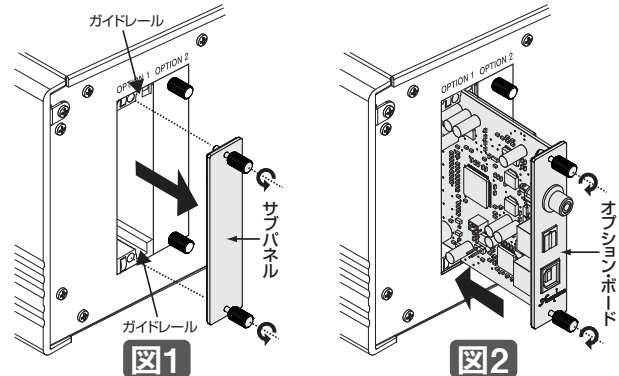
● カートリッジの内部インピーダンスの2~3倍以上を目安にしますが、実際に試聴して良い音質の得られるインピーダンスを決定してください。

オプション・ボード

オプション・ボードの取り付け方法

- ① 本機の電源を切ります。
- ② リアパネルのオプション用スロットのサブパネルを外します。(図1参照)
※外したサブパネルは保管しておいてください。
- ③ オプション用スロットの上下のガイドレールに沿って、オプション・ボードを挿入(図2参照)します。
コネクタに当たって止まったら、少し力を入れてパネル面が同一になるまで差し込みます。
- ④ 上下のネジ2カ所で確実に固定します。

*挿入のイラスト図は、DAC-50を示します。



注意

- オプション・ボードを抜き差しするときは、必ず本機の電源を切る。
電源を入れたまま抜き差しすると、故障の原因となります。
- サブパネルを外したとき、スロット内部に手などを入れない。(スロット内部に、オプション・ボード以外は入れないでください。)
- 部品やハンダ、コネクタの接点部分を手で触らない。手で触れると接触不良や回路が故障する原因となることがあります。ボードを持つ場合にはプリント板の外周やパネル部を持ってください。
- オプション・ボードの取り付けネジは手で完全に締める。締めつけが不完全ですと、端子がグラウンドから浮いて接触不良となり、故障の原因となることがあります。
- 入力端子やコネクタなどに接点復活剤や導電剤などは絶対使用しない。これらの要因による不具合は保証対象外となります。

8. オーディオ・ケーブル(オプション)

オプションでアナログ用の「オーディオ・ケーブル」としてライン・ケーブル(RCAプラグ付)とバランス・ケーブル(XLRコネクタ付)を用意しています。

*各ケーブル、特注扱いで5m, 7.5m, 10mも用意しています。

■OFCシリーズ：無酸素銅(OFC)撚線

型番	ケーブルタイプ	ケーブル長	プラグ	希望小売価格
AL-10	ライン・ケーブル	1.0m(2本)	RCAプラグ	10,000円 (税別)
AL-15		1.5m(2本)	RCAプラグ	13,000円 (税別)
AL-30		3.0m(2本)	RCAプラグ	16,000円 (税別)
ALC-10	バランス・ケーブル	1.0m(2本)	XLRコネクタ	15,000円 (税別)
ALC-15		1.5m(2本)	XLRコネクタ	18,000円 (税別)
ALC-30		3.0m(2本)	XLRコネクタ	22,000円 (税別)

■SRシリーズ：高純度(7N)銅線などによる8芯マルチハイブリッド導体構造

型番	ケーブルタイプ	ケーブル長	プラグ	希望小売価格
ASL-10	ライン・ケーブル	1.0m(2本)	RCAプラグ	25,000円 (税別)
ASL-15		1.5m(2本)	RCAプラグ	35,000円 (税別)
ASL-30		3.0m(2本)	RCAプラグ	65,000円 (税別)
ASLC-10	バランス・ケーブル	1.0m(2本)	XLRコネクタ	35,000円 (税別)
ASLC-15		1.5m(2本)	XLRコネクタ	45,000円 (税別)
ASLC-30		3.0m(2本)	XLRコネクタ	75,000円 (税別)

9. 保証特性

*保証特性はEIA測定法RS-490に準ずる。

★印の特性はアナログ・ディスク入力ボードAD-50装着時を示す。

周波数特性

BALANCED INPUT: [CD-BAL/BAL]

3	～	200,000Hz	+0	-3.0dB
20	～	20,000Hz	+0	-0.2dB

LINE INPUT: [CD/TUNER/LINE/RECORDER PLAY]

3	～	200,000Hz	+0	-3.0dB
20	～	20,000Hz	+0	-0.2dB

★AD INPUT: [MM/MC]

20	～	20,000Hz	±0.3dB	
----	---	----------	--------	--

全高調波ひずみ率 (全ての入力端子にて)

0.005%

入力感度・入力インピーダンス

入力端子	入力感度		入力インピーダンス
	定格出力時	0.5V 出力時	
BALANCED	252mV	63mV	40kΩ (20kΩ/20kΩ)
LINE	252mV	63mV	20kΩ
★AD:MM/40dB	2.5mV	0.63mV	47kΩ
★AD:MC/66dB	0.126mV	0.0315mV	30/100/300Ω 切替

定格出力・出力インピーダンス

BALANCED OUTPUT	: 2V	50Ω
LINE OUTPUT	: 2V	50Ω
★RECORDER REC	: 252mV	200Ω AD入力時

S/N・入力換算雑音 (GAINスイッチ: 18dB時)

入力端子	入力ショート(A補正)		EIA S/N
	定格出力時S/N	入力換算雑音	
BALANCED	110dB	-122dBV	108dB
LINE	110dB	-122dBV	108dB
★AD:MM/40dB	80dB	-136dBV	86dB
★AD:MC/66dB	68dB	-152dBV	76dB

最大出力レベル (ひずみ率 0.005% 20~20,000Hz)

BALANCED OUTPUT	: 7.0V
LINE OUTPUT	: 7.0V
★RECORDER REC	: 6.0V AD入力時

LINE最大入力電圧

BALANCED INPUT	: 6.0V
LINE INPUT	: 6.0V

最小負荷インピーダンス

BALANCED OUTPUT	: 600Ω
LINE OUTPUT	: 600Ω
RECORDER REC	: 10kΩ

クロストーク

-74dB以上(10kHz)

★AD最大入力電圧 (1kHz, ひずみ率 0.005%)

MM/40dB INPUT	: 60.0mV
MC/66dB INPUT	: 3.0mV

ゲイン (GAINスイッチ: 18dB時)

*GAINスイッチ12dB時では、下記の値に全て-6dB加算。

*GAINスイッチ24dB時では、下記の値に全て+6dB加算。

BALANCED INPUT	→ BALANCED OUTPUT	: 18dB
BALANCED INPUT	→ LINE OUTPUT	: 18dB
LINE INPUT	→ BALANCED OUTPUT	: 18dB
LINE INPUT	→ LINE OUTPUT	: 18dB
★AD[MM: 40dB] INPUT	→ BALANCED OUTPUT	: 58dB
★AD[MM: 40dB] INPUT	→ LINE OUTPUT	: 58dB
★AD[MM: 40dB] INPUT	→ REC OUTPUT	: 40dB
★AD[MC: 66dB] INPUT	→ BALANCED OUTPUT	: 84dB
★AD[MC: 66dB] INPUT	→ LINE OUTPUT	: 84dB
★AD[MC: 66dB] INPUT	→ REC OUTPUT	: 66dB

トーン・コントロール

低音/高音域それぞれの周波数切替および可変範囲

低音 (BASS) : 40/100Hz切替 ±10dB

高音 (TREBLE) : 8k/20kHz切替 ±10dB

コンペンセーター

+6dB (100Hz)

★サブソニック・フィルター

25Hz -12dB/octave

アッテネーター

-20dB

ヘッドフォン端子

適合インピーダンス 8Ω以上

*12ページ参照

出力レベル2V (40Ω)

電源

AC100V 50/60Hz

消費電力

34W

最大外形寸法

幅465mm × 高さ150mm × 奥行405mm

質量

16.9kg

付属リモート・コマンダー RC-230

リモコン方式 : 赤外線パルス方式

電源 : DC3V・乾電池 単3形2個使用

最大外形寸法 : 50mm×192.5mm×21.5mm

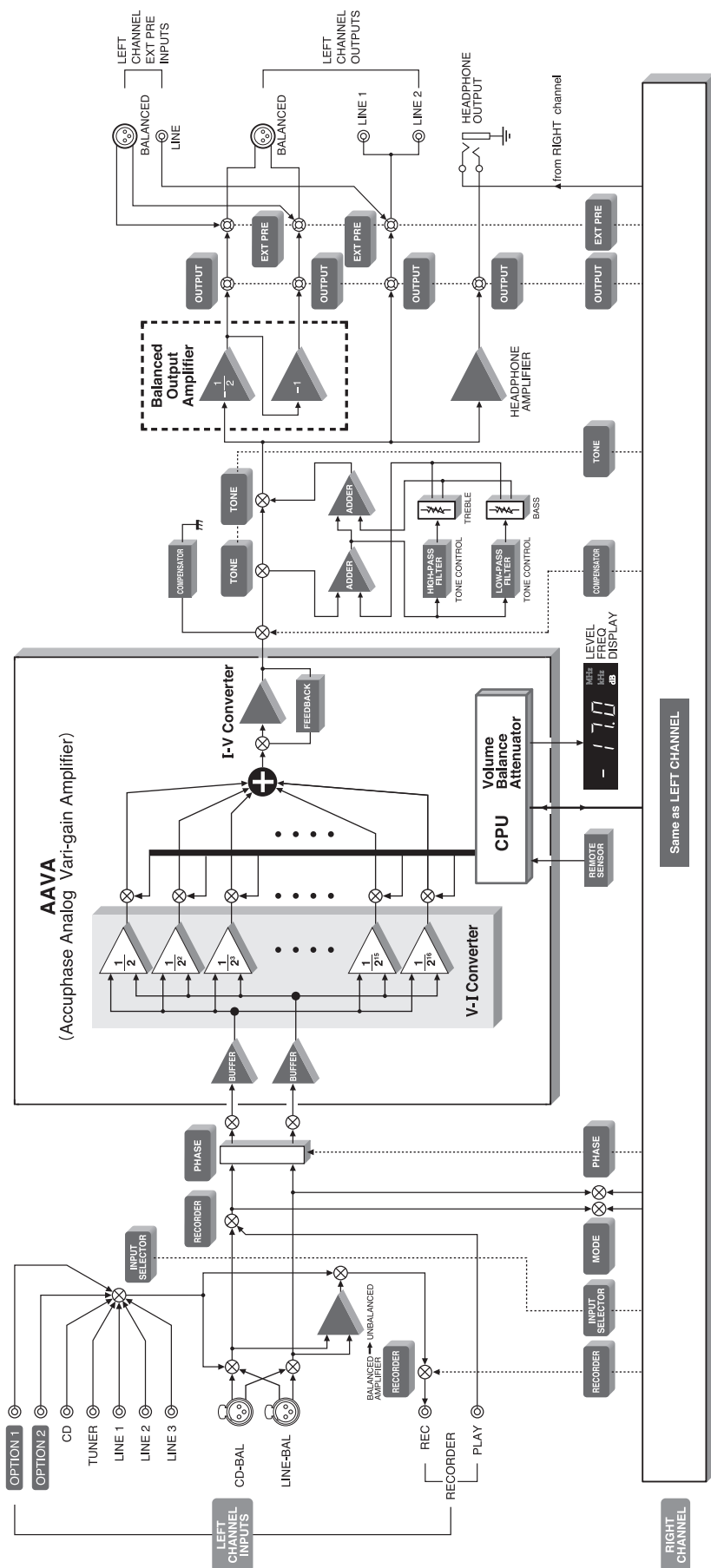
質量 : 210g(電池含む)

●本機は「JIS C-61000-3-2 適合品」です。

JIS C-61000-3-2 適合品とは、日本産業規格「電磁両立性-第3-2部: 限度値-高調波電流発生限度値(1相あたりの入力電流が20A以下の機器)」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。

*本機の仕様・特性および外観は、改善のため予告なく変更することがあります。

10. ブロック・ダイアグラム



保証特性
ブロック・ダイアグラム

11. 故障かな?と思われるときは

故障かな?と思われるときは、修理を依頼される前に、下記の項目をチェックしてください。

これらの処置をしても直らない場合には、当社製品取扱店または当社品質保証部にご連絡ください。



注意

：オペレーション・スイッチの切り替えや接続を変えるときは、必ず各機器の電源スイッチを切る。

現象	原因等	対処方法
電源が入らない。	電源コードが抜けている。	本体側とコンセント側の挿入箇所を確認してください。
	電源コードが傷んでいる。	危険ですので傷んでいる電源コードは使用せず、当社製品取扱店または当社品質保証部へご連絡ください。
音が出ない。 音が小さい。	電源が入っていない。	電源が入っているか確認してください。
	ソース側機器やパワーアンプの電源が入っていない。	ソース側機器やパワーアンプの電源が入っているか確認してください。
	接続が正しくされていない。	全ての接続ケーブルを確認してください。
	16 INPUTセレクターや 2 OUTPUTスイッチの位置が異なる。	16 INPUTセレクターや 2 OUTPUTスイッチの位置を確認してください。
	14 ATTボタンがONになっている。(11ページ)	14 ATTボタンをOFFにしてください。
	2 OUTPUTスイッチがEXT PREになっている。(6ページ)	2 OUTPUTスイッチをALLにしてください。
片方のスピーカーから音が出ない。	11 RECORDERスイッチがPLAYになっている。	11 RECORDERスイッチをPLAY以外にしてください。
	接続が正しくされていない。	全ての接続ケーブルを確認してください。
	ソース側機器や本機のスイッチの設定が異なる。	ソース側機器や本機のスイッチを確認してください。
	上記2つの原因ではない場合。	下記「片方のスピーカーから音が出ない場合に原因を探す方法」をお試しください。
ボリューム・ノブを回すと、スピーカーからノイズが出る。	高能率スピーカーをご使用の場合、ボリューム・ノブを回転するときやバランス調整を行うときに、『電流スイッチの切替動作音』が聞こえる場合があります。この動作音は異常ではありません。(3ページ)	もし「切替動作音」が気になる場合は、 10 GAINスイッチ(10ページ)を12dBポジションで使用すると有効です。
入力信号が片チャンネル側に片寄っている。	9 BALANCEノブがセンターではない。	9 BALANCEノブを確認してください。
定位感がはっきりしない。	片方のチャンネルだけ位相が逆になっている。	スピーカー・ケーブルの極性(+/-)が正しいか確認してください。
リモート・コマンドで操作できない。	電池が入っていない。	電池を入れてください。
	電池の極性が合っていない。	電池を正しく挿入してください。
	電池が切れている。	新しい電池と交換してください。
	受光部付近に障害物がある。	受光部付近に障害物を置かないでください。
	テレビやインバーター照明等の影響で、受信できない。	テレビやインバーター照明等から離すか、設置の向きを変えてみてください。
表示が消える。	6 DISPLAYボタンがOFFになっている。	6 DISPLAYボタンを確認してください。

片方のスピーカーから音が出ない場合に原因を探す方法

注意：接続を切り替える時は、必ず各機器の電源を切る

手順	方法	結果	原因
1	本機とパワー・アンプとの接続ケーブルを以下のように入れ替えます。 ●本機の左チャンネル → パワーアンプの右チャンネル ●本機の右チャンネル → パワーアンプの左チャンネル	同じスピーカーから音がでない。	パワーアンプやスピーカー・ケーブルの接続やスピーカーに問題があると考えられます。
		違うスピーカーから音がでない。	本機またはプレーヤーに問題があると考えられます。さらに手順2を行います。
2	本機の入力ケーブルの接続を以下のように入れ替えます。 ●プレーヤーの左チャンネル → 本機の右チャンネル ●プレーヤーの右チャンネル → 本機の左チャンネル	同じスピーカーから音がでない。	本機に問題があると考えられます。
		違うスピーカーから音がでない。	プレーヤーに問題があると考えられます。

故障かな?と思われるときは

アフターサービス

12. アフターサービスについて

保証書について

- 保証書は本体付属の『お客様カード(保証書発行はがき)』の登録でお送りいたしますので、「お客様カード」を**当社品質保証部に必ずご返送ください。**
- 『お客様カード』の『お客様情報欄』には付属の『目隠しシール』を貼ってご返送ください。
- 保証書の記載内容により、**本機の保証期間はご購入日から5年間です。**
- 『品質保証書』の無い場合は、**全て有償修理となります**ので、『お客様カード』は必ずご返送ください。
- 『お客様カード』をご返送いただく時、ご購入日等を記入して頂きますが、下記の場合には『品質保証書』の発行ができないことがあります。
 - *ご記入頂いた購入日と弊社からの製品出荷日とが大きく異なる場合。
 - *『お客様カード』が返送されないまま、転売(インターネット等)された場合。
 - *長期間『お客様カード』の返送がない場合。
- オプション類には『お客様カード』を付属していませんが、製品出荷日をご購入日として弊社が登録し、『5年間保証』とさせていただきます。

保証期間が過ぎてしまったら

- 修理によって性能を維持できる場合には、ご希望により有料で修理いたします。
- 補修部品の保有期間は経済産業省指導により、製造終了後8年間となっています。使用期間が相当経過している場合には、当社品質保証部にお問い合わせください。



注意

保証期間以降、長期に渡って安全にご使用いただくために、当社での定期的な点検を行ってください。内容については当社品質保証部にご相談ください。

その他

- 本機は絶対に分解や改造をしないでください。修理ができない場合があります。
- 本機の故障に起因する付随的損害(営利的使用に関する諸費用、使用により得られる利益の損失等)については補償できません。
- AC100V以外(海外)では使用できません。
- 保証は日本国内のみ適用されます。
The Accuphase warranty is valid only in Japan.

お問い合わせは

- ご質問、ご相談、当社製品取扱店のご案内などは、下記の当社品質保証部へお願いします。

アキュフェーズ株式会社 品質保証部
〒225-8508 横浜市青葉区新石川2-14-10
TEL 045(901)2771(代表)
FAX 045(901)8995

- 修理のご相談は、お買い求めの当社製品取扱店へお願いします。
- 当社のホームページ上でも修理のお問い合わせが可能です。
<https://www.accuphase.co.jp/>

修理を依頼する場合には

- “故障かな?と思われるときは”をご確認後、直らない場合には、電源プラグをコンセントから抜き、当社製品取扱店に修理を依頼してください。

次の内容をお知らせください。(保証書参照)

- モデル名、シリアル番号
- ご住所、氏名、電話番号
- ご購入日、ご購入店
- 故障状況：できるだけ詳しく

- * 梱包材は、輸送時に必要となりますので、可能であれば保管しておいてください。

enrich life through technology



ACCUPHASE LABORATORY, INC.
アキュフェーズ株式会社
〒225-8508 横浜市青葉区新石川2-14-10
TEL.045-901-2771(代) FAX.045-901-8959
<https://www.accuphase.co.jp/>